

* وَقَالَ الَّذِينَ لَا يَرْجُونَ لِقَاءَنَا لَوْلَا أُنزِلَ عَلَيْنَا الْمَلَائِكَةُ
 أَنْزَرِي رَبَّنَا لَقَدْ اسْتَكْبَرُوا فِي أَنْفُسِهِمْ وَعَتَوْا عُتُوًا كَبِيرًا
 ﴿٦١﴾ يَوْمَ يَرَوْنَ الْمَلَائِكَةَ لَا بُشْرَى يَوْمَئِذٍ لِلْمُجْرِمِينَ وَيَقُولُونَ
 حَجْرًا مَّحْجُورًا ﴿٦٢﴾ وَقَدِمْنَا إِلَى مَا عَمِلُوا مِنْ عَمَلٍ فَجَعَلْنَاهُ
 هَبَاءً مُنثَرًا ﴿٦٣﴾ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ يَوْمَئِذٍ خَيْرٌ مُسْتَقَرًّا
 وَأَحْسَنُ مَقِيلًا ﴿٦٤﴾ وَيَوْمَ نَشْفِقُ السَّمَاءَ بِالْعَمَمِ وَنُزِّلُ الْمَلَائِكَةَ
 تَنْزِيلًا ﴿٦٥﴾ الْمُلْكُ يَوْمَئِذٍ الْحَقُّ لِلرَّحْمَنِ وَكَانَ يَوْمًا عَلَى
 الْكَافِرِينَ عَسِيرًا ﴿٦٦﴾ وَيَوْمَ يَعَضُّ الظَّالِمُ عَلَى يَدَيْهِ يَقُولُ
 يَلَيْتَنِي اتَّخَذْتُ مَعَ الرَّسُولِ سَبِيلًا ﴿٦٧﴾ يُؤْيَلِتُنِي لَيْتَنِي لَمْ
 أَتَّخِذْ فَلَانًا خَلِيلًا ﴿٦٨﴾ لَقَدْ أَضَلَّنِي عَنِ الذِّكْرِ بَعْدَ إِجْرَائِي
 وَكَانَ الشَّيْطَانُ لِلْإِنْسَانِ خَذُولًا ﴿٦٩﴾ وَقَالَ الرَّسُولُ يَذَرُ
 أَنْ قَوْمِي اتَّخَذُوا هَذَا الْقُرْآنَ مَهْجُورًا ﴿٧٠﴾ وَكَذَلِكَ
 جَعَلْنَا لِكُلِّ نَبِيٍّ عَدُوًّا مِنَ الْمُجْرِمِينَ وَكَفَى بِرَبِّكَ هَادِيًا
 وَنَصِيرًا ﴿٧١﴾ وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لَوْلَا نُزِّلَ عَلَيْهِ الْقُرْآنُ جُمْلَةً
 وَاحِدَةً كَذَلِكَ لِنُثَبِّتَ بِهِ فُؤَادَكَ وَرَتَّلْنَاهُ تَرْتِيلًا ﴿٧٢﴾

21 われらとの面会を望まず、懲罰を恐れない人たちは言った。「なぜ天使たちがわたしたちに遣わされないのか。そうすればムハンマドが真実であることを知らせることができるのに。」または「なぜわたしたちは自分の主であるアッラーを見るができないのか。そうすればそういう話もできるのに。」かれらは実に自信過剰で横柄で、そのために信仰も持てないのだ。かれらは不信仰と横暴の限界を超えたのだ。

22 かれらが天使たちを見る最後の日とは、死が訪れた時、死後の復活までの移行過程にある時、復活され清算に連れて行かれる時、地獄の火に入れられる時である。罪深い人たちにとっては吉報のない日で、それは信者たちと異なる。かれら天使たちは言う。「アッラーの吉報は、あなた方にはあり得なくて、禁じられたものである。」

23 われらはかれら不信仰者の行なった善事へと向かうが、それは不信仰のために無意味であり、益することもないので、日の光に照らされる窓際に見る塵のように、まき散らされることとなる。

24 その日、楽園の仲間、現世における不信仰たちのより、もっと良い住まいともっと快適な休息の場所にいる。それはアッラーへの信仰のためで、またその正しい行いのためである。

25 その日、諸天は裂けて白い薄い雲が現れ、降臨する天使たちは続々と集合地に遣わされる。

26 その日、真実の確立された王国の支配の大権は、当然慈悲深き方のものである。だから、不信仰者にとっては多難だが、信者にとってはその逆で楽な日となる。

27 使徒よ、言え、「その日、使徒(アッラーの祝福と平安)に背いて不正を行なった人は、悔しさからその手を噛んで言うだろう、もしわたしが使徒ムハンマドと共に主から来た正しい道を選んでいたら、救いの道を歩めていたことになり、よかったのに。」

28 さらに言う。何と情けないことか。わたしが、不信仰者の中で誰それを友としなかったならよかったのに。

29 確かに、この不信仰者はクルアーンが使徒を経て来た後に、わたしを迷わせた。悪魔は常に人間を裏切る。そして問題が生じると、迷わせた人を捨て去るのだ。

30 使徒は人々の状態について言う。わたしの主よ、真にわたしの人々は、このクルアーンを無視して拒否する。

31 それでわれらはそれぞれの預言者に、あなたが出会ったような害をなし、道を遠ざける人たちを、それぞれの罪深き人たちの中から敵としてもうけた。でも、真実への指導者と敵に対する援助者としては、あなたの主アッラーがいれば十分である。

32 一方、不信仰な人たちは、こう言った。「なぜクルアーンは使徒に対して、一度にすべてまとめて啓示されないのか。」こうするのは、われらがあなたの心を堅固にするため、われらは徐々に啓示を下すのだ。また理解を容易にして、よく記憶するためである。

本諸節の功德:

- 不信仰は、正しい行いを遠ざける。
- 悪い友の危険性。
- クルアーン拒否の損害。
- クルアーンが徐々に下されたことの知恵は、預言者(アッラーの祝福と平安)に確実なものにし、また理解、記憶、そしてその実践を容易にするためである。

وَلَا يَأْتُونَكَ بِمَثَلٍ إِلَّا جِئْنَاكَ بِالْحَقِّ وَأَحْسَنَ تَفْسِيرًا ﴿٣٦﴾
 الَّذِينَ يُحْشِرُونَ عَلَىٰ وُجُوهِهِمْ إِلَىٰ جَهَنَّمَ أُولَٰئِكَ
 سُورٌ مَّكَانًا وَأَضَلُّ سَبِيلًا ﴿٣٧﴾ وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَىٰ الْكِتَابَ
 وَجَعَلْنَا مَعَهُ وَآخَاهُ هَارُونَ وَزِيرًا ﴿٣٨﴾ فَقُلْنَا أَذْهَبَا
 إِلَى الْقَوْمِ الَّذِينَ كَذَبُوا بِآيَاتِنَا فَدَمْزَلْنَهُمْ تَدْمِيرًا ﴿٣٩﴾
 وَقَوْمَ نُوحٍ لَمَّا كَذَبُوا الرُّسُلَ أَغْرَقْنَاهُمْ وَجَعَلْنَاهُمْ سُلَالِمًا
 ءَايَةً وَأَعْتَدْنَا لِلظَّالِمِينَ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿٤٠﴾ وَعَادًا وَثَمُودًا
 وَأَصْحَابَ الرَّيْسِ وَقُرُونًا بَيْنَ ذَلِكَ كَثِيرًا ﴿٤١﴾ وَكُلًّا
 ضَرَبْنَا لَهُ الْأَمْثَالَ وَكُنَّا تُبْرِنًا تَتْبِيرًا ﴿٤٢﴾ وَلَقَدْ آتَوْنَا عَلَى
 الْقَرْيَةِ الَّتِي أَمْطَرْنَا مَطَرًا سَوِيًّا أَفَلَمْ يَكُونُوا يَرَوْنها
 بَلْ كَانُوا لَا يَتْرُجُونَ لَشُورًا ﴿٤٣﴾ وَإِذَا رَأَوْكَ إِن يَتَّخِذُونَكَ
 إِلَّا هُزُوعًا أَهْدَا الَّذِي بَعَثَ اللَّهُ رَسُولًا ﴿٤٤﴾ إِن كَادَ
 لَيُضِلُّنَا عَنْ آلِهَتِنَا لَوْلَا أَن صَبَرْنَا عَلَيْهَا وَسَوْفَ
 يَعْلَمُونَ حِينَ يَرْوُونَ الْعَذَابَ مَنْ أَضَلُّ سَبِيلًا ﴿٤٥﴾ أَرَأَيْتَ
 مَنِ اتَّخَذَ إِلَهَهُ هَوَاهُ وَأَفَأَنْتَ تَكُونُ عَلَيْهِ وَكَيْلًا ﴿٤٦﴾

③③ 多神教徒たちが、あなたに何らかのたとえを持ってくれば、**われら**は必ずやあなたに真理の確固とした答えを与える。**われら**はあなたに、よりよく説明するものをもたすのである。

③④ その日に、顔を伏せて地獄に集められる人たち、かれらは最悪の状況にあり、それはまさしく地獄である。そして最悪の道にある。というのは、それは不信仰と逸脱の道なのだ。

③⑤ 確かに**われら**はムーサーに啓典を受け、その兄ハールーンを補佐として任命した。使徒ムーサーを助けるためである。

③⑥ **われら**は言った。あなた方二人は、フィルアウンと**われら**の印を拒否する民の所に行け。そこでかれら二人は赴いて、アッラーの唯一性を説いた。しかしそれをかれらは拒否し、**われら**はかれら拒否する民を完全に破壊した。

③⑦ またヌーフの民については、かれらが使徒ヌーフ(平安)たちを拒否したとき、**われら**はかれらを海に溺れさせて滅ぼし、悪人を懲らしめる力の証拠とした。**われら**は不正を行なう人たちに、厳しい苦痛を準備した。

③⑧ さらに、アードの民であるフードとサーリフの民であるサムードと井戸の民(訳者注:一説には、シュアイブの民であるラッスの町の人々)、それからそれらの間の多くの民を破滅させた。

③⑨ **われら**はそれぞれの民にそれ以前の民の破滅とその原因を明らかにし、それぞれを不信仰と執拗さのために完全に破壊した。

④⑩ 確かにかれらマッカの多神教徒は、シリアへの旅路の途次に、災いの雨である石が不道徳を戒めるために降らされたルートの民の(サドゥームの)町を訪れた。それなのに、かれらは留意しないで、視力がないようにして、それを見なかったのか。

を見なかったのか。いいや、かれらは復活やその後の清算を予想していなかったのだ。

④① かれらがあなたを見るときは、こう言って嘲笑し拒否するのだ。アッラーが使徒としてわたしたちに遣わしたのは、この人か。

④② かれムハンマドはもう少しで、わたしたちの神々から迷わずとところであった。もし自分たちが、かの神々にしっかり付いていなかったら、わたしたちはその議論と証拠によって道を反れていたであろう、と。でも、かれらは自分の墓中と最後の日に苦痛を見ると、誰が最も道に迷ったかをすぐに知るだろう。自分たちが、それともかれムハンマドかを。

④③ 使徒よ、あなたは自分の欲望を神として、それに従った人を見たか。それなのに、あなたはかれらの保護者になって、道に連れ戻して、不信仰から立ち直らせようとするのか。

本諸節の功德:

- アッラーを拒否しその印を拒むことで、国が亡びる原因となる。
- 復活への信仰がなければ、戒めを受けることがなくなる。
- 真実をわきまえる人々を嘲笑するのは、不信仰者の特徴である。
- 欲望に従うことの危険性。

أَمْ تَحْسَبُ أَنَّ أَكْثَرَهُمْ يَسْمَعُونَ أَوْ يَعْقِلُونَ إِنْ هُمْ إِلَّا كَالْأَنْعَامِ بَلْ هُمْ أَضَلُّ سَبِيلًا ﴿٤٤﴾ أَلَمْ تَرَ إِلَى رَبِّكَ كَيْفَ مَدَّ الظِّلَّ وَلَوْ شَاءَ لَجَعَلَهُ سَاكِنًا ثُمَّ جَعَلْنَا الشَّمْسُ عَلَيْهِ دَلِيلًا ﴿٤٥﴾ ثُمَّ قَبَضْنَاهُ إِلَيْنَا قَبْضًا يَسِيرًا ﴿٤٦﴾ وَهُوَ الَّذِي جَعَلَ لَكُمُ الْيَوْمَ لَيْسَاءَ وَالنَّوْمَ سُبَاتًا وَجَعَلَ النَّهَارَ نُشُورًا ﴿٤٧﴾ وَهُوَ الَّذِي أَرْسَلَ الرِّيحَ بُشْرًا بَيْنَ يَدَيْ رَحْمَتِهِ وَأَنْزَلْنَا مِنَ السَّمَاءِ مَاءً طَهُورًا ﴿٤٨﴾ لِنُحْيِيَ بِهِ بَلْدَةً مَيْتًا وَنُسْقِيَهُ وَمِمَّا خَلَقْنَا الْعِظَامَ وَأَنَا سَيِّدٌ كَثِيرًا ﴿٤٩﴾ وَلَقَدْ صَرَّفْنَا فِيهِمْ يَدًّا مَّا كَانُوا يَتَذَكَّرُونَ ﴿٥٠﴾ وَتَوَشَّيْنَا لِعِبَادِنَا فِي كُلِّ قَرْيَةٍ نَذِيرًا ﴿٥١﴾ فَلَا تَطِيعُ الْكٰفِرِينَ وَجَهَدْنَاهُمْ بِهِ جِهَادًا كَبِيرًا ﴿٥٢﴾ وَهُوَ الَّذِي مَرَجَ الْبَحْرَيْنِ هَذَا عَذْبٌ فُرَاتٌ وَهَذَا مِلْحٌ أُجَاجٌ وَجَعَلَ بَيْنَهُمَا بَرْزَخًا وَحِجْرًا مَحْجُورًا ﴿٥٣﴾ وَهُوَ الَّذِي خَلَقَ مِنَ الْمَاءِ بَشَرًا فَجَعَلَهُ نَسَبًا وَصِهْرًا وَكَانَ رَبُّكَ قَدِيرًا ﴿٥٤﴾ وَيَعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ مَا لَا يَنْفَعُهُمْ وَلَا يَضُرُّهُمْ وَكَانَ الْكَافِرُ عَلَىٰ رَبِّهِ ظَهِيرًا ﴿٥٥﴾

الفرقان
٣٧

④④ それとも、あなたがアッラーの唯一性と帰順を呼びかける人たちの多くが耳を傾けて、議論や証拠を理解するとも思っているのか。よく聞いて理解し、了解するかどうかの点では、かれらは家畜のようなものに過ぎない。いや、かれらはそれよりも道から迷っているのだ。

④⑤ あなたの主アッラーがどのように影を地上に上げたかを、あなたは見なかったのか。もしかれが望めば、それを静止させることもできた。さらに、われらは太陽をその影の動きの指標とし、それは時間により長くも短くもなる。

④⑥ その後、自身の方へゆっくり影を引き寄せ、太陽の高さに応じて徐々に小さくする。

④⑦ かれこそはあなた方のために夜を覆いとし、休息のために睡眠をもうけ、昼間を外の仕事の時間とした。

④⑧ かれこそはかれの慈雨の前に、僕たちに吉報の風を吹かせる方。そして、われらは空から清浄な雨水を降らせる。それでかれらは洗淨する。

④⑨ その雨水によって、われらは死んだ大地に生命を与え、緑がなかったところに植物が繁茂し、われらが創った数多くの家畜や人間に飲ませるのだ。

④⑩ かれらがアッラーに留意するために、クルアーンにおいて多数の議論や証拠を示した。しかし多くの人々は拒否し続け、真実を拒むだけだ。

④⑪ もしわれらが望めば、どの町にもアッラーの懲罰を警告し、それを恐れさせる者を遣わしただろう。そうしなかったのは、ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)を人類全体の使徒として遣わしたからだ。

④⑫ だから、不信仰者に優しくして、その要望に従ってはいけない。かれらに対し、このクルアーンをもって大いに奮闘努力し、かれらの危害に忍耐強くして、アッラーへと呼びつつその困難さを耐え忍ぶように。

④⑬ かれこそは、二つの海を合わせた方。一つは甘くて美味しく、もう一つは塩辛くて苦い。かれは二つの間に障壁を設けて、通越せない仕切りとした。

④⑭ かれこそは男女の液体から人間を創り、血縁と姻戚の絆をもうけた。真にあなたの主は力量溢れ、かれの力が男女の液体から人間を創造したのだ。

④⑮ ところが、かれらはアッラーを差し置いて、従っても益することなく、逆らっても害することも無いものに仕える。不信仰者はアッラーが怒るようなことで、いつも悪魔に従ってきた者である。

本諸節の功德:

- 不信仰な者は、アッラーを拒否することで、動物よりも低いレベルに成り下がる。
- 影のあることは、アッラーの力量を示す一つの印になる。
- 議論や証拠を多様化することは、有効な教育上の方法である。
- クルアーンでもって唱道するのは、アッラーの道で奮闘努力する一つの形態である。

وَمَا أَرْسَلْنَاكَ إِلَّا مُبَشِّرًا وَنَذِيرًا ﴿٥٦﴾ قُلْ مَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ إِلَّا مَنْ شَاءَ أَنْ يَتَّخِذَ إِلَىٰ رَبِّهِ سَبِيلًا ﴿٥٧﴾ وَتَوَكَّلْ عَلَىٰ الْحَيِّ الَّذِي لَا يَمُوتُ وَسَبِّحْ بِحَمْدِهِ وَكَفَىٰ بِهِ بِذُنُوبِ عِبَادِهِ خَبِيرًا ﴿٥٨﴾ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ اسْتَوَىٰ عَلَى الْعَرْشِ الرَّحْمَنُ فَسْأَلُ بِهِ خَبِيرًا ﴿٥٩﴾ وَإِذْ قِيلَ لَهُمُ اسْجُدُوا لِلرَّحْمَنِ قَالُوا وَمَا الرَّحْمَنُ أَنَّا سَجْدَلِمَاتٍ أَمْرُنَا وَأَرَادَ هُمْ نُفُورًا ﴿٦٠﴾ تَبَارَكَ الَّذِي جَعَلَ فِي السَّمَاءِ بُرُوجًا وَجَعَلَ فِيهَا سِرَاجًا وَقَمَرًا مُنِيرًا ﴿٦١﴾ وَهُوَ الَّذِي جَعَلَ اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ خِلْفَةً لِمَنْ أَرَادَ أَنْ يَذَّكَّرَ أَوْ أَرَادَ شُكُورًا ﴿٦٢﴾ وَعِبَادُ الرَّحْمَنِ الَّذِينَ يَمْسُونَ عَلَى الْأَرْضِ هُونَ وَإِذَا خَاطَبَهُمُ الْجَاهِلُونَ قَالُوا سَلَمًا ﴿٦٣﴾ وَالَّذِينَ يَبِيتُونَ لِرَبِّهِمْ سُجَّدًا وَقِيَامًا ﴿٦٤﴾ وَالَّذِينَ يَقُولُونَ رَبَّنَا اصْرِفْ عَنَّا عَذَابَ جَهَنَّمَ إِنَّ عَذَابَهَا كَانَ غَرَامًا ﴿٦٥﴾ إِنَّهَا سَاءَتْ مُسْتَقَرًّا وَمُقَامًا ﴿٦٦﴾ وَالَّذِينَ إِذَا أَنْفَقُوا لَمْ يُسْرِفُوا وَلَمْ يَقْتُرُوا وَكَانَ بَيْنَ ذَلِكَ قَوَامًا ﴿٦٧﴾

の特性について語られる。

〔56〕慈悲あまねき方の僕とは、謙虚ではあるが誇りをもって地上を歩く人たちで、馬鹿げた人たちが話しかけても、同じようにやり返すのではなく、かれらによいことを語り、馬鹿げたことを言ったりはしないのである。

〔57〕また、かれらはアッラーの御前に額を付けて平伏礼して、また立礼して夜を過ごす人たちである。

〔58〕また、かれらは主にたいしてこう言う人たちである。「わたしたちの主よ、地獄の苦痛(懲罰)をわたしたちから遠ざけてください。その苦痛は恒常的で、不信仰者たちの死に常に伴うものである。

〔59〕実にそれは悪い定住地で、悪い住まいだ。」

〔60〕また、かれらが金銭を使うときには過剰な浪費をせず、自分自身その他支出の義務がある者たちに対してはケチにもならず、浪費とケチの間の中道を行く人たちである。

本諸節の功德:

- アッラーへの唱道をする人は、その報いを人から求めない。
- アッラーが、かれに相応しい形で玉座に座ったという属性の確証。
- 慈悲あまねき、という美称は、誰も共有できないものだ。慈悲あまねき方という美名は、アッラーだけのもの。
- 僕には昼と夜が交互に来るので、そのどちらかでできなかった儀礼を補填することができる。
- 謙譲と寛大さ、人々が不注意な状態のときに服従行為にいそむこと、アッラーへの恐れ、出費それ以外のことにおける中庸さは慈悲あまねきお方の僕の特性である。

〔56〕われらはあなたを信仰し正しい行いをする人たちへの吉報の伝達者として、また不信仰と背信により、アッラーに背く人たちへの警告者として遣わしたのだ。

〔57〕使徒よ、言え。わたしは啓示を伝えることについてあなた方に何の報酬も求めない。ただし、誰でも望む人は施しをしつつ、アッラーの喜ばれる道を取るがよい。

〔58〕また、死ぬことのない永生者であるアッラーを信頼して、その清浄さを宣告し、称賛の言葉をもってかれを賛美せよ。かれはかれの僕たちの罪を、完全に熟知している。何事も隠せず、またしたことに応じて報われるのだ。

〔59〕かれは諸天と地とその間にあるすべてのものを6日の間に創造した方で、さらにかれは玉座の上に座られた荘厳な方である。慈悲あまねき方であり、かれにこそ、そのことについて尋ねよ。すべてを熟知して、何事も隠せない方である。

〔60〕かれら不信仰者が慈悲あまねき方に平伏礼をせよと言われると、かれらは言う。「慈悲あまねき方とは何か。わたしたちがあなたが命じるものに平伏礼をするのか。われわれはその方を知らないし、また認めてもない。知らないものに平伏礼をするわけにはいかないのだ。」こうしてかれらはアッラー信仰からの逃避を増すばかり。

〔61〕かれに称賛あれ。かれは天に天体の定位置と星座を設け、またその中に光る太陽とそれを反射して地上を明るくする月を設けた。

〔62〕かれこそは、アッラーの印に留意して正しい道に従い、その恵みに感謝しようとする人のために、夜と昼を続けて交代するように設けた方である。

不信仰な者たちがアッラーに従って信仰を持つことを避けることについて述べた後、かれに従う正しい僕たちの

وَالَّذِينَ لَا يَدْعُونَ مَعَ اللَّهِ إِلَهًا آخَرَ وَلَا يَقْتُلُونَ النَّفْسَ
الَّتِي حَرَّمَ اللَّهُ إِلَّا بِالْحَقِّ وَلَا يَزْنُونَ وَمَنْ يَفْعَلْ ذَلِكَ
يَلْقَ أَثَامًا ٦٨ يُضْعَفُ لَهُ الْعَذَابُ يَوْمَ الْقِيَامَةِ وَيَخْلُدُ
فِيهِ مُهَانًا ٦٩ إِلَّا مَنْ تَابَ وَآمَنَ وَعَمِلَ عَمَلًا صَالِحًا
 فَأُولَئِكَ يُبَدِّلُ اللَّهُ سَيِّئَاتِهِمْ حَسَنَاتٍ وَكَانَ اللَّهُ
غَفُورًا رَحِيمًا ٧٠ وَمَنْ تَابَ وَعَمِلَ صَالِحًا فَإِنَّهُ يَتُوبُ
إِلَى اللَّهِ مَتَابًا ٧١ وَالَّذِينَ لَا يَشْهَدُونَ الزُّورَ وَإِذَا مَرُّوا
بِاللَّغْوِ مَرُّوا كِرَامًا ٧٢ وَالَّذِينَ إِذَا ذُكِرُوا بِعَائِتِ
رَبِّهِمْ لَمْ يَخِرُّوا عَلَيْهَا صُمًّا وَعُمْيَانًا ٧٣ وَالَّذِينَ يَقُولُونَ
رَبَّنَا هَبْ لَنَا مِنْ أَزْوَاجِنَا وَذُرِّيَّاتِنَا قُرَّةَ أَعْيُنٍ وَاجْعَلْنَا
لِلْمُتَّقِينَ إِمَامًا ٧٤ أُولَئِكَ يُجْزَوْنَ الْعُرْفَةَ بِمَا صَبَرُوا
وَيُلَقَّوْنَ فِيهَا تَحِيَّةً وَسَلَامًا ٧٥ خَالِدِينَ فِيهَا
حَسُنَتْ مُسْتَقَرًّا وَمُقَامًا ٧٦ قُلْ مَا يَعْبُؤُنِيكُمْ رَبِّي
لَوْلَا دَعَاؤُكُمْ فَقَدْ كَذَّبْتُمْ فَسَوْفَ يَكُونُ لِزَامًا ٧٧

سورة الشجره
٢٧ آياتها
٢٦ آياتها

68) また、かれらはアッラーと共に他の神を並べて祈らない人たちがであり、また人殺ししない人たちである。ただし殺人者、棄教者、結婚した人で姦通した者といった正当な理由があれば別である。あるいはまた姦淫などしない人である。もちろん、そのような大罪をする人は、最後の日に懲罰を受ける。

69) 復活の日にはかれへの苦痛(懲罰)は倍加され、その恥辱の中に永遠に住むのである。

70) ただし、改心し善行に励み、改心の誠実さを示す人は別で、アッラーはかれらの悪行を、善行で置き変える。アッラーは改心する僕の罪をよく赦される方で、慈悲深い方なのである。

71) 誠実、誠意をもって改心して善行に勤しむ人は、確かにアッラーに受け入れられる。

72) また、慈悲あまねき方の僕とは嘘の証言をしない人たちがで、罪の現場や禁じられた娯楽場には行かないで、無駄話や下らない行動をしている人々の側を通るときは、そのまま通り過ぎ、それに係り合わないで尊厳を持って距離を保つ人である。

73) また、かれらはアッラーの印が想起されると、耳が聞こえない人や目が見えない人のように、見ず、聞かずの振る舞いはしない人たちである。

74) また、かれらは祈ってこう言う人たち。わたしたちの主よ、敬虔さと真実への堅固さのために自分たちの目の癒し(心の安らぎ)となる妻たちと子孫たちをわたしたちに与え、わたしたちをして、アッラーを畏れる人々の模範にしてくださいと。

75) これらの特性を持つ人はアッラーに従って耐え忍んだことにより、楽園で最高の位階を授けられる。また、そこで天使たちに挨拶と平安の祈願で迎えられ、あらゆる困難から守られている。

76) その中に永遠に住み、そこで定着する。その住まいの何とすばらしいことか。

77) 使徒よ、不信仰者に言え。もしアッラーにあなた方が祈らなくても、主はその服従から利益が得られないとして気にされることはない。つまり服従や嘆願のために主を呼ぶ僕がいなくても、かれはあなた方に気を配られることはない。確かに、あなた方は主から使徒がもたらしたものを拒否した。そのような拒否に対しては、やがて避けられない懲罰が来るのである。

本諸節の功德:

- アッラーの僕の特性:多神教から遠ざかる、生命を不当に奪うことはしない、姦通や虚偽から遠ざかること、アッラーの印に教訓を見出し、アッラーに祈ること。
- 誠実な改心は、罪惡を離れ、善行に勤しむことを伴う。
- 忍耐は楽園の最高段階に至る方法となる。
- アッラーは不信仰者の信仰を必要とするわけではない。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سورة الشعراء
الجزء التاسع عشر

طَسَمَ ① تِلْكَ آيَاتُ الْكِتَابِ الْمُبِينِ ② لَعَلَّكَ بَخْعٌ تَفْسَاكَ ③ أَلَّا
يَكُونُوا مُؤْمِنِينَ ④ إِنْ نَشَأْ نُزِّلْ عَلَيْهِمْ مِنَ السَّمَاءِ آيَةٌ فَظَلَّتْ
أَعْنَاقُهُمْ لَهَا خَاضِعِينَ ⑤ وَمَا يَأْتِيهِمْ مِنْ ذِكْرٍ مِنَ الرَّحْمَنِ مُحَدَّثٍ
إِلَّا كَانُوا عَنْهُ مُعْرِضِينَ ⑥ فَقَدْ كَذَّبُوا فَسَيَأْتِيهِمْ أَهْبَاتُ مَا كَانُوا
يُبْهَسُونَ ⑦ وَأُولُو بَيْرُوتَ إِلَى الْأَرْضِ كَرِهْنَا فِيهَا مِنْ كُلِّ زَوْجٍ
كَرِيهٍ ⑧ إِنْ فِي ذَلِكَ لَآيَةٌ وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُمْ مُؤْمِنِينَ ⑨ وَإِنَّ
رَبَّكَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ⑩ وَإِذْ نَادَى رَبُّكَ مُوسَى أَنْ أَنْتَ الْقَوْمَ
الظَّالِمِينَ ⑪ قَوْمَ فِرْعَوْنَ أَلا يَتَّقُونَ ⑫ قَالَ رَبِّ إِنِّي أَخَافُ
أَنْ يُكَذِّبُونِ ⑬ وَيَضِيقُ صَدْرِي وَلَا يَنْطَلِقُ لِسَانِي فَأَرْسِلْ
إِلَيَّ هَرُونَ ⑭ وَلَهُمْ عَلَى ذَنْبٍ فَأَخَافُ أَنْ يَقْتُلُونِ ⑮ قَالَ
كَلَّا فَادْهَبْ بِآيَاتِنَا إِنَّا مَعَكُمْ مُسْتَمِعُونَ ⑯ فَأْتِيَافِرْعَوْنَ
فَقَوْلًا إِنَّا رَسُولُ رَبِّ الْعَالَمِينَ ⑰ أَنْ أَرْسِلَ مَعَنَا بِنِ إِسْرَائِيلَ
⑱ قَالَ أَلَمْ نُرَبِّكَ فِينَا وَلِيدًا وَلَبِثْتَ فِينَا مِنْ عُمُرِكَ سِنِينَ
⑳ وَفَعَلْتَ فَعَلْتَكِ الَّتِي فَعَلْتَ وَأَنْتَ مِنَ الْكَافِرِينَ ㉑

本章の趣旨:

使徒を嘘呼ばわりし、そのメッセージを汚そうとする者たちへの対峙と、その威力の失墜

説明:

- ①ター・スィーン・ミーム。これらの文字の意味は、すでに雌牛章の冒頭で述べたところである。
②これは、虚偽とは異なる、明瞭な真実を明らかにするクルアーンの諸節である。
③使徒よ、おそらくあなたは布教に熱心なあまり、かれらが信者にならないので、悲しきで死ぬほど苦悩するだろう。
④もしわれらが望めば天から奇跡を降ろすので、かれらの首はそれに恐れ入って垂れたままになる。しかしながらかれらを試すために、そうはしなかった。かれらは、見えない世界を信じるか？
⑤でも、慈悲あまねき方からかれらに唯一性と預言者の真実であることの新しい啓示がもたらされるたびに、かれらはいつも背き去るだけである。
⑥かれらは使徒がもたらしたものを嘘であると拒否する。でも、かれらが笑い草にしてきた知らせが、確証をもって今にかれらに降りかかり、懲罰が下される。
⑦かれらは不信仰を続けて、この大地を見ないのか。われらがどれだけ多くの美しく、果実の豊かな種類の植物をその中に育てたことか。
⑧確かにどれだけ多くの種類の植物をその中に育てたかということに、かれが死んだものを復活させるという一つの印がある。だが、かれらの多くは信じない。
⑨使徒よ、真にあなたの主は偉力大であり、支配されることはなく、信仰を持つ者たちには、慈悲深い方なのである。
⑩使徒よ、あなたの主が、ムーサーに呼びかけて、アッラーを拒否した不正な民が人々を奴隷にしているので、そこへ行くのだ、と言ったときのことを思い出せ。

⑪それはフィルアウンの民で、ムーサーはかれらを優しく導き、アッラーの命令を遵守し、禁止を守ることで、かれらにアッラーを畏れさせよ、と言われた。

⑫ムーサー(平安を)は言った。主よ、かれらがわたしを拒絶し、伝えるべきことも拒否することを恐れる、

⑬わたしの胸は狭まり、わたしの舌はアッラーへと呼ぶのにもつれて思うに任せられない。だから天使のジブリール(平安を)を兄弟のハールーンに遣わして、かれがわたしを補佐できるようにしてください。

⑭また、かれらはわたしにコプト教徒を殺したという殺人罪を科しているので、かれらがわたしを殺害するのを恐れる。

⑮かれは言った。いいやとんでもない、殺しなどはしない。だからあなた方二人は真実を示すわれらの印を持って行きなさい。確かにわれらはあなた方を支援して、何を言って何を言われているかを、共に聞いている。何も気づかないことはないのだ。

⑯だからあなた方二人は、フィルアウンの所に行つて言うのだ。「わたしたちは、すべての世界の創造主の使徒である。」

⑰「イスラエルの子孫を、わたしたちと一緒に出て行かせよ」。

⑱かれ(フィルアウン)はムーサーに言った。わたしたちはあなたが幼少のとき、わたしたちの間で育てたではないか。あなたの生涯の多くの年月を、わたしたちの間で過ごしたではないか。それでどうして今、預言者であると主張するのか。

⑲あなたは自分の仲間を守るため、コプト教徒を殺した。あなたはわたしの恵みを認めず、忘恩の人だ。

本諸節の功德:

●使徒(平安あれ)の人々を導く熱心さ。

●アッラーの力と慈悲の属性の確認。

●心が広く演説のうまいことは、伝道師に重要。

●使徒たちの呼び掛けは、僕たちをアッラー以外への服従から解放することである。

●ムーサーの犯した殺人事件のために、フィルアウンはかれが使徒であることに反対したが、ムーサーはそのことを認めたことで、フィルアウンが虚偽の主張をするための口実とはならないことが判明した。

قَالَ فَعَلْتَهَا إِذَا وَأَنَا مِنَ الضَّالِّينَ ﴿٢٠﴾ فَفَرَرْتُ مِنْكُمْ لَمَّا خِفْتُكُمْ
 فَوَهَبَ لِي رَبِّي حُكْمًا وَجَعَلَنِي مِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿٢١﴾ وَذَلِكَ نِعْمَةٌ
 تَمُنُّهَا عَلَيَّ أَنْ عَبَّدتَّ بَنِي إِسْرَائِيلَ ﴿٢٢﴾ قَالَ فِرْعَوْنُ وَمَا رَبُّ الْعَالَمِينَ
 ﴿٢٣﴾ قَالَ رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا إِنْ كُنْتُمْ مُوقِنِينَ
 ﴿٢٤﴾ قَالَ لِمَنْ حَوَالَهُ وَالْأَلْسِنَةُ مِعْوَةٌ وَالرُّبُوبُ رَبُّ آبَائِكُمْ
 الْأَوَّلِينَ ﴿٢٥﴾ قَالَ إِنْ رَسُولُكُمْ أَلَيْكُمْ لَمَجْنُونٌ
 ﴿٢٦﴾ قَالَ رَبُّ الْمَشْرِقِ وَالْمَغْرِبِ وَمَا بَيْنَهُمَا إِنْ كُنْتُمْ تَعْقِلُونَ
 ﴿٢٧﴾ قَالَ لَنْ أَخَذتَّ إِلَهًا غَيْرِي لِأَجْعَلَنَّكَ مِنَ الْمَسْجُورِينَ
 ﴿٢٨﴾ قَالَ أَوْ لَوْ جِئْتِكَ بِشَيْءٍ مُبِينٍ ﴿٢٩﴾ قَالَ فَأْتِ بِهِ إِنْ كُنْتَ
 مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٣٠﴾ فَأَلْقَى عَصَاهُ فَإِذَا هِيَ ثُعْبَانٌ مُبِينٌ ﴿٣١﴾
 وَنَزَعَ يَدَهُ فَإِذَا هِيَ بَيْضَاءُ لِلنَّظِيرِينَ ﴿٣٢﴾ قَالَ لِلْمَلَأِ حَوَالَهُ
 إِنْ هَذَا إِلَّا سِحْرٌ عَلِيمٌ ﴿٣٣﴾ يُرِيدُ أَنْ يُخْرِجَكُمْ مِنْ أَرْضِكُمْ
 بِسِحْرِهِ فَمَاذَا تَأْمُرُونَ ﴿٣٤﴾ قَالُوا أَرْجِهْ وَأَخَاهُ وَأُعِثِّ فِي الْمَدَائِنِ
 حَاشِرِينَ ﴿٣٥﴾ يَا تَأُوكُ بِكُلِّ سِحْرٍ عَلِيمٍ ﴿٣٦﴾ فَجُمِعَ السَّحَرَةُ
 لِمِيقَاتِ يَوْمٍ مَعْلُومٍ ﴿٣٧﴾ وَقِيلَ لِلنَّاسِ هَلْ أَنْتُمْ مُجْتَمِعُونَ ﴿٣٨﴾

20 ムーサー(平安を)はフィルアウンに言った。わたしがあなたの言ったことをしたのは、啓示を受ける前で、使徒として遣わされる前のことであった。

21 その後、わたしはあなた方の報復が恐ろしくなって、かれを殺してからマドヤンへあなた方から逃避した。でも、わたしの主はわたしに英知を授けて、人々に送られる使徒たちの一人にした。

22 あなたはイスラエルの子孫を奴隷化した、わたしのことは奴隷にせず養育してくれたことで、わたしに恩を着せている。見逃してくれたからと言って、それでもわたしがあなたに唱道することは妨げられないのだ。

23 フィルアウンはムーサーに言った。あなたがその使徒であると主張する、すべての世界の主は何なのか。

24 かれは言った。諸天と地とその間の、すべての創造されたものの主である。あなた方がこれを確信するなら、かれだけを崇拜せよ。

25 フィルアウンは取巻きの参謀たちに向かって言った。あなた方はムーサーの答えと、その嘘の主張を聞いたか。

26 ムーサーは言った。あなた方の主はアッラーであり、あなた方の先祖の主でもあった。

27 フィルアウンは言った。あなた方に遣わされたというこの使徒は、気遣いだ。答え方も知らないし、その言うことはつじつまが合わない。

28 ムーサーは言った。わたしが唱道するアッラーは、東と西とその間にあるすべての世界の主である。もしあなた方が理解するならよかったのだ。

29 フィルアウンは反論できないうで言った。あなたがわたし以外に神を奉るなら、わたしはあなたを投獄するだろう。

30 ムーサーは言った。たとえ、わたしがアッラーからもたらされたもので、明白にわたしの真実であることを示す何かをあなたにもたらしても囚人にするのか。

31 フィルアウンは言った。あなたの言うことが本当なら、あなたの主張することが真実だということを示すものを提示してみろ。

32 そこでムーサーは杖を投げると、見よ、それは大蛇になった。

33 またかれが手を服に入れたときは白くなかったのに、出すと、見よ、それは癩病でもないのに誰が見ても真っ白になった。

34 フィルアウンは取巻きの参謀たちに言った。確かに、これは熟練の魔術師である。

35 かれは自分の魔術で、あなた方をこの国から追い出そうとしている。それであなた方はかれをどうするように助言するのか。

36 かれらは言った。かれとその兄弟をここに留めておいて、町々から魔術師を召集する者を遣わしましょう。罰するのを急がないように。

37 かれらは腕の立つ魔術師全員を、あなたのところに連れて来よう。

38 そこで魔術師たちは、某日の決められた時に集められ、ムーサーに挑戦した。

39 また民衆に向かっても告げられた。あなた方は誰が勝つかを見るために集るか？ムーサーか、あるいは魔術師たちか？

本諸節の功德:

●以前に唱道者に過ちがあったことや、何らかの恩を受けたことは、自らが過ちを犯した人や恩を受けた人に、唱道してはいけないことにはならない(ムーサーがフィルアウンに唱道していること)。

●敵から自分を守る手段を取ることは、信仰とアッラーへの信頼を損なうものではない。

●アッラーの創造は、かれが主であることと、その唯一性を立証する。

●議論の弱さは、暴力に頼る一つの原因となる。

●信者に対して大衆を挑発することは、謀反の者たちの手段である。

لَعَلَّنَا تَتَّبِعَ السَّحَرَةَ إِنْ كَانُوا هُمُ الْعَالَمِينَ ﴿٥٦﴾ فَلَمَّا جَاءَ السَّحَرَةُ
 قَالُوا لِفِرْعَوْنَ أَيِّنَ لَنَا الْأَجْرُ إِنْ كُنَّا نَحْنُ الْعَالَمِينَ ﴿٥٧﴾ قَالَ نَعَمْ
 وَإِن تَكُورُونَ إِذَا لِمَنِ الْمُقَرَّبِينَ ﴿٥٨﴾ قَالَ لَهُمْ مُوسَى أَلَمْ أَتَاكُمْ مَقْلُوبًا
 قَالُوا لَوْ أَجِبْنَا لَهُمُوعَصِيَهُمْ وَقَالُوا بَعْزَةٌ فِرْعَوْنَ إِنَّا لَنَحْنُ
 الْعَالِمُونَ ﴿٥٩﴾ فَأَلْفَى مُوسَى عَصَاهُ فَإِذَا هِيَ تَلْقَفُ مَا يَأْفِكُونَ
 ﴿٦٠﴾ فَأَلْفَى السَّحَرَةَ سَاجِدِينَ ﴿٦١﴾ قَالُوا أَمْ تَأْتِي رَبَّ الْعَالَمِينَ ﴿٦٢﴾
 رَبِّ مُوسَى وَهَارُونَ ﴿٦٣﴾ قَالَ أَمْ تُنْتَهُلُوهُ وَقَبْلَ أَنْ يَأْتِيَهُمْ لَكُمُ الْإِنهٗ
 لَكَيْدٌ كُرِّهُ الَّذِي عَلَّمَكُمُ السِّحْرَ فَلَسَوْفَ تَعْمَلُونَ لَأَقْطَعَنَّ أَيْدِيَكُمْ
 وَأَرْجُلَكُمْ مِنْ خَلْفٍ وَلَأَصْلَبَنَّكُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٦٤﴾ قَالُوا لَأَصْبِرَنَّآ
 إِلَى رَبِّنَا مُنْقَلِبُونَ ﴿٦٥﴾ إِنَّا نَنْظِعُكَ أَنْ يَغْفِرَ لَنَا رَبُّنَا خَطِيئَتَنَا أَنْ كُنَّا
 أَوَّلَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٦٦﴾ وَأَوْحَيْنَا إِلَى مُوسَى أَنْ أَسْرِ بِعِبَادِي إِلَيْكُمْ
 مُتَّبِعُونَ ﴿٦٧﴾ فَأَرْسَلْنَا فِرْعَوْنَ فِي الْمَدَائِنِ حَاشِرِينَ ﴿٦٨﴾ إِنْ هُوَ إِلَّا
 لَشِرْذِمَةٌ قَلِيلُونَ ﴿٦٩﴾ وَإِنَّهُمْ لَنَا لَغَائِظُونَ ﴿٧٠﴾ وَإِنَّا لَجَمِيعٌ حَازِرُونَ
 ﴿٧١﴾ فَأَخْرَجْنَاهُمْ مِنْ جَنَّاتٍ وَعُيُونٍ ﴿٧٢﴾ وَكُنُوزٍ وَمَقَامٍ كَرِيمٍ ﴿٧٣﴾
 كَذَلِكَ وَأَوْرَثْنَاهَا بَنِي إِسْرَائِيلَ ﴿٧٤﴾ فَاتَّبَعُوهُمْ مُشْرِقِينَ ﴿٧٥﴾

詩人章

369

部 19

⑤⑥もし魔術師たちがムーサーに勝つなら、わたしたちはかれらに従うでしょう。

⑤⑦それから、魔術師たちはフィルアウンのところに来て言った。わたしたちがムーサーに対して勝者となれば、わたしたちには物的、精神的な報酬があるのですか。

⑤⑧フィルアウンは言った。当然だ。その場合、あなた方は必ずわたしの側近となり、高い地位を得る。

⑤⑨ムーサーはアッラーの支援に自信をもって、また自分の保持しているのは魔術ではないことを明確に示そうとして、かれらに向かって言った。あなた方の綱や杖を投げてみよ。

⑤⑩そこで、かれらは縄と杖を投げて言った。フィルアウンの権勢にかけて、わたしたちは必ず勝利者になり、ムーサーは敗北する。

⑤⑪その後、ムーサーが杖を投げると、それは蛇になって、かれらのかけていた魔術は解けてしまった。

⑤⑫そしてムーサーの杖が、かれらが投げたものを飲み込んだので、魔術師たちは身を投げ出して平伏し、

⑤⑬言った。わたしたちはすべての世界の創造の主を信仰する。

⑤⑭ムーサーとハールーン(平安を)の主を。

⑤⑮フィルアウンは魔術師たちの信仰を否認して言った。「あなた方は、わたしが許していないのにムーサーの言うことを信じるのか。かれは魔術を教えたあなた方の師匠だったのだろう。エジプトから人々を追放することで共謀したので、あなた方はすぐにわたしの処罰を思い知るだろう。わたしはあなた方の両手両足を互い違いに切断し、さらに一人残らずヤシの木に張り付けよう。」

⑤⑯かれらはフィルアウンに言った。「構いません。現世で切断や張り付けなどによって脅かしても、その処罰には終わりがあります。しかし結局、わたしたちは永遠の慈悲に入れてくれる主の元に帰るのです。」

⑤⑰「わたしたちはムーサーに対するフィルアウンの民の最初の信者として、自分たちの主が自分たちの数々の罪を赦すことを望みます。」

⑤⑱われらはムーサーに、イスラエルの子孫と一緒にに夜に間に旅立つのだ、あなた方には必ずファルアウンたちの追手がかり、連れ戻そうとすると啓示した。

⑤⑲その後フィルアウンはイスラエルの子孫が逃げ出したことを知って、町々に軍兵を遣わし、兵員を集めた。

⑤⑳フィルアウンは言った、これらのイスラエルの子孫はほんの少数の群れにすぎない。

⑤㉑かれらはわたしたちを挑発している。

⑤㉒わたしたちは、警戒心をもって、準備し終えた。

⑤㉓それでわれらはかれらフィルアウンとその民をエジプトから出させたが、エジプトは豊富な果樹園や溢れる泉の国である。

⑤㉔財宝や美しい住居もある。

⑤㉕こうしてわれらはフィルアウンとその民を恵みの外へ出させて、イスラエルの子孫たちに、シリアの方でそれらと同様の恵みを継がせた。

⑤㉖それでかれらフィルアウンの軍勢は、日の出のとき、かれらを追って来た。

本諸節の功德:

●虚偽の人たちの互いの関係は、物質的なものである。

●ムーサーの魔術師たちに対する勝利への自信は、主の約束に対する信頼から来る。

●魔術師たちが結局信仰したということは、アッラーは望みのままに人の心を操られることの証左である。

●圧政と不正は、支配の終焉をもたらす原因となる。

فَلَمَّا تَرَاهُ الْجَمْعَانَ قَالَ أَصْحَابُ مُوسَى إِنَّا لَمَدْرَكُونَ ﴿٦١﴾
 قَالَ كَلَّا إِنَّ مَعِيَ رَبِّي سَيَهْدِينِ ﴿٦٢﴾ فَأَوْحَيْنَا إِلَى مُوسَى أَنْ
 أَضْرِبْ بِعَصَاكَ الْبَحْرَ فَانْفَلَقَ فَكَانَ كُلُّ فِرْقٍ كَالطَّوْدِ الْعَظِيمِ ﴿٦٣﴾
 وَأَزْلَفْنَا ثَمَ الْآخِرِينَ ﴿٦٤﴾ وَأَنْجَيْنَا مُوسَى وَمَنْ مَعَهُ وَأَجْمَعِينَ ﴿٦٥﴾
 ثُمَّ أَغْرَقْنَا الْآخِرِينَ ﴿٦٦﴾ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً وَمَا كَانَ
 أَكْثَرُهُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿٦٧﴾ وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿٦٨﴾
 وَأَنْتَ عَلَيْهِمْ نَبَأُ إِبْرَاهِيمَ ﴿٦٩﴾ إِذْ قَالَ لِأَيِّهِ وَقَوْمِهِ مَا تَعْبُدُونَ
 ﴿٧٠﴾ قَالُوا نَعْبُدُ أَصْنَامًا فَنفِطُلُ لَهَا عَافِيَةً ﴿٧١﴾ قَالَ هَلْ
 يَسْمَعُونَكُمْ إِذْ تَدْعُونَ ﴿٧٢﴾ أَوْ يَنْفَعُونَكُمْ أَوْ يُضُرُّونَ ﴿٧٣﴾ قَالُوا
 بَلْ وَجَدْنَا آبَاءَنَا كَذَلِكَ يَفْعَلُونَ ﴿٧٤﴾ قَالَ أَفَرَأَيْتُمْ مَا كُنْتُمْ
 تَعْبُدُونَ ﴿٧٥﴾ أَنْتُمْ وَاَبَاؤُكُمْ الْأَقْدَمُونَ ﴿٧٦﴾ فَإِنَّهُمْ عَدُوٌّ لِي
 إِلَّا رَبَّ الْعَالَمِينَ ﴿٧٧﴾ الَّذِي خَلَقَنِي فَهُوَ يَهْدِينِ ﴿٧٨﴾ وَالَّذِي هُوَ
 يُطْعِمُنِي وَيَسْقِينِ ﴿٧٩﴾ وَإِذَا مَرَضْتُ فَهُوَ يَشْفِينِ ﴿٨٠﴾ وَالَّذِي
 يُمَيِّتُنِي ثُمَّ يُحْيِينِ ﴿٨١﴾ وَالَّذِي أَطْمَعُ أَنْ يَغْفِرَ لِي خِطِيئَتِي
 يَوْمَ الدِّينِ ﴿٨٢﴾ رَبِّ هَبْ لِي حُكْمًا وَالْحَقِّقْنِي بِالصَّالِحِينَ ﴿٨٣﴾

⑥1 両者が互いに姿が見えるようになると、ムーサーの仲間
 は言った。わたしたちは追いつかれるが、何もできない
 でしょう。

⑥2 ムーサーは言った。決してそうならない、というのは、
 真にわたしの主はわたしと共におられ、支援し助勢し、
 わたしを導き、救いの道を示されるからだ。

⑥3 それでわれらはムーサーに啓示した。あなたの杖で
 海を打て。すると海は割れて、イスラエールの子孫の氏
 族と同じ数の12の道になった。それぞれの割れた部分
 は、巨大な安定した山のようになり、少しも水は出てこな
 かった。

⑥4 またわれらはフィルアウンとその民に、その道は行く
 ことができると思わせて、そこに誘い込んだ。

⑥5 そしてわれらはムーサーとかれと共にいたイスラエー
 ールの子孫たち全員を救った。

⑥6 さらにわれらはフィルアウンらを溺れさせた。

⑥7 確かに、海が分かれ、ムーサーを救いフィルアウンと
 その民を破滅させたこの話の中には、ムーサーが真実で
 あることを証明する一つの印がある。フィルアウンの一
 群は、信者ではなかった。

⑥8 使徒よ、真にあなたの主は偉力大であり、敵に報復す
 る。しかし改心する人々には、慈悲深い方である。

⑥9 使徒よ、イブラーヒームの物語を、かれらマッカの多神
 教徒たちに語れ。

⑦0 かれが自分の父アザルと自分の人々に、こう言った
 ときのこと。あなた方はアッラーに代えて、何を崇拜する
 のか。

⑦1 かれらは言った。わたしたちは偶像を崇拜して、常に
 この偶像への奉仕に専念する。

⑦2 イブラーヒームは言った。あなた方が祈るとき、それら
 はあなた方の言うことを聞いてくれるのか。

⑦3 また、それらは食料を与えればあなた方を益するの
 か、それとも不服従であればあなた方を害するののか。

⑦4 かれらは言った。いや、食料を与えても益はなく、不服
 従でも害はない。ただわたしたちの先祖がこうしている
 のを見たのだ。

⑦5 かれは言った。それなら、あなた方がアッラーに代えて崇拜してきた偶像について、あなたがたは考えてみたのか。

⑦6 あなた方のその先祖たちも崇拜していた偶像について、考えてみたのか。

⑦7 確かに、かれらはわたし(イブラーヒーム)の敵で偽物だが、すべての世界の創造の主はそうではない。

⑦8 かれはわたしを創ったお方で、かれはわたしを現世と来世の最善なものに導いてくれる。

⑦9 腹が空けばわたしに食料を与え、喉が渴けば飲料を授けるお方。

⑧0 また病気になるれば、かれだけがわたしを癒してくれる。かれ以外に癒してくれるものはない。

⑧1 かれだけがわたしに寿命が来れば死なせ、それから生き返らせるお方。

⑧2 かれだけが、審判の日にわたしの罪を赦すことを、わたしが嘆願するお方。

⑧3 イブラーヒームは祈って言った。わたしの主よ、教えを深く理解する英知をわたしに授け、わたし以前の敬虔な預言者たちに並んで、仲間として一緒に楽園に入れて下さい。

本諸節の功德:

●アッラーはいつも信者たちをその困難から救い、支援し、助勢している。

●アッラーは剛力で慈悲深い。

●盲従は危険。

●信者が主に対して抱く希望は、偉大である。

وَأَجْعَلْ لِي لِسَانَ صِدْقٍ فِي الْآخِرِينَ ﴿٨٤﴾ وَأَجْعَلْنِي مِنْ وَرَثَةِ جَنَّةِ
التَّعْبِيرِ ﴿٨٥﴾ وَأَعْفِرْ لِي آثِمِي إِنَّهُ كَانَ مِنَ الصَّالِحِينَ ﴿٨٦﴾ وَلَا تُخْزِنِي يَوْمَ
يُبْعَثُونَ ﴿٨٧﴾ يَوْمَ لَا يَنْفَعُ مَالٌ وَلَا بَنُونَ ﴿٨٨﴾ إِلَّا مَنْ آتَى اللَّهَ بِقَلْبٍ
سَلِيمٍ ﴿٨٩﴾ وَأُزْلِفَتِ الْجَنَّةُ لِلْمُتَّقِينَ ﴿٩٠﴾ وَبُرُزَّتِ الْجَحِيمُ لِلْعَاوِينَ ﴿٩١﴾
وَقِيلَ لَهُمْ آيُنْ مَا كُنتُمْ تَعْبُدُونَ ﴿٩٢﴾ مِنْ دُونِ اللَّهِ هَلْ يَبْصُرُونَكُمْ
أَوْ يَسْمَعُونَ ﴿٩٣﴾ فَكُفُّوا فِيهَا هُمْ وَالْعَاوُونَ ﴿٩٤﴾ وَجَنُودِ إبْلِيسَ
أَجْمَعُونَ ﴿٩٥﴾ قَالُوا وَهُمْ فِيهَا يَخْتَصِمُونَ ﴿٩٦﴾ تَاللَّهِ إِنْ كُنَّا لِنَفِي
ضَلَالٍ مُبِينٍ ﴿٩٧﴾ إِذْ نَسُواكُمْ يَرْبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٩٨﴾ وَمَا أَصَلْنَا إِلَّا
الْمَجْرُمُونَ ﴿٩٩﴾ فَمَا لَنَا مِنْ شَافِعِينَ ﴿١٠٠﴾ وَلَا صَديقٍ حَمِيمٍ ﴿١٠١﴾ فَلَوْ
أَنْ لَنَا كَرَّةٌ فَنَتُوكَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٠٢﴾ إِنْ فِي ذَلِكَ لَآيَةٌ وَمَا كُنَّا
أَكْثَرَهُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿١٠٣﴾ وَإِنَّ رَبَّكَ لَهوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿١٠٤﴾ كَذَّبَتْ
قَوْمُ نُوحٍ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٠٥﴾ إِذْ قَالَ لَهُمْ أَخُوهُمْ نُوحٌ أَلَا تَتَّقُونَ ﴿١٠٦﴾
إِنِّي لَكُمْ رَسُولٌ أَمِينٌ ﴿١٠٧﴾ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا ﴿١٠٨﴾ وَمَا أَسْأَلُكُمْ
عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ إِنْ أَجْرِيَ إِلَّا عَلَى رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٠٩﴾ فَاتَّقُوا اللَّهَ
وَأَطِيعُوا ﴿١١٠﴾ قَالُوا أَلْوَيْلٌ لَنَا وَأَتَّبَعَكَ الْأَرْدَلُونَ ﴿١١١﴾

الجزء
٣٨

詩人章

371

部 19

〔84〕後世までわたしの荣誉が語り継がれるようにしてください。

〔85〕そして信者たちが豪勢に暮らす楽園に、わたしを入れて、それを継ぐ人としてください。

〔86〕わたしの父をお赦しください。確かに、かれは多神教で迷った人の仲間でした。イブラヒームは、かれの父親が地獄の人だとわかる前にはしきりに救済のために祈ったが、しかしそれが明らかとなってからは父親との絶縁を宣言し、嘆願は停止した。

〔87〕また人々が復活して清算される日、わたしに懲罰を加えて恥辱を与えないでください。

〔88〕その日には、現世で集めた財宝も、支えてくれた子供たちも役に立たないのだ。

〔89〕ただし、多神教、偽善、見せかけ、傲慢さなどはなくて、きれいな信心を持つ人は別だ。かれの財産はアッラーのために支出され、その子供はかれのために祈るからだ。

〔90〕楽園は、アッラーを畏れて命令を順守し、禁止事項を守る人たちに近付けられる。

〔91〕地獄の火は邪道に迷った人に、復活の集合地で露呈される。

〔92〕かれらは非難されて言われる。あなた方がアッラーを差し置いて崇拝していた偶像は、どこにいるのか。

〔93〕偶像はアッラーの懲罰を防いで、あなた方を助けられるのか、または、自分自身を助けられるのか。

〔94〕結局、かれら偶像も、かれらが邪道に迷わせた人たちも、その地獄中に投げ込まれる。

〔95〕また悪魔からなるイブリース（訳者注：幽精で悪魔）の仲間たちも全員だ。

〔96〕偶像崇拝者たちは、アッラー以外を崇拝し、同列に配していたのだが、その中で崇拝していた偶像たちと口論して言う。

〔97〕アッラーに誓って、確かに、わたしたちは明らかに真実からの迷いの中にいた。

〔98〕なぜならわたしたちはすべての創造の主とあなた方偶像と等しくして、崇拝していたのだから。

〔99〕わたしたちを真実の道から迷わせたのは、アッラーに代えて祈るように呼び掛けた罪作りなものに他ならない。

〔100〕今となっては、わたしたちには執り成す者もなく、アッラーの前で仲介する者もなく、そして懲罰を免れることもない。

〔101〕わたしたちを守り、仲介してくれる本当の親友もいない。

〔102〕わたしたちがもう一度現世に返ることができるなら、きっと信者の仲間となるだろう。

〔103〕確かに、このイブラヒーム（平安を）の話とかれを拒否する人たちの結末についての話の中には、留意する人への一つの印がある。かれらの多くは信じない人たちである。

〔104〕使徒よ、あなたの主は実に偉力大で、その敵に報復される。そして、改心する者には、慈悲深い方である。

〔105〕ヌーフ（平安を）の民も、かれ以前の使徒たちも含めて信じなかった。

〔106〕ヌーフはかれら同胞にこう言った。あなた方はアッラーを恐れて、他のものへの崇拝を止めることで、自重しないのか。

〔107〕確かに、わたしはアッラーによって遣わされたあなた方への使徒であり、啓示されたものに追加も削除もしない誠実な者。

〔108〕だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。

〔109〕わたしは伝達することに対してあなた方からは報酬を求めない。わたしの報酬はすべての創造の主、アッラーからだけで、他のものからはない。

〔110〕だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。

〔111〕かれらは言った。ヌーフよ、わたしたちはあなたを信じ、その命令に従って行動したりするものか。低俗な人たちが、あなたに従っているのだ。そこには指導者はいないし、高貴な人たちもいない。

本諸節の功德:

- 心の病気を防ぐ重要性。嫉妬、見せかけ重視、傲慢さなど。
- 人々を迷わせた人の責任を責めても、迷った人たちのためにはならない。
- 一人の預言者を嘘呼ばわりする人は、預言者全員を拒否していることになる。
- イブラヒームの話は復活の日の言及で終了しているのは、良い話の閉め方になっている。

قَالَ وَمَا عَلِمِي بِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١١٢﴾ إِنَّ حَسَابَهُمْ لِإِلَٰهِي رَبِّي
 لَوَ تَشْعُرُونَ ﴿١١٣﴾ وَمَا أَنَا بِطَارِدِ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١١٤﴾ إِنْ أَنَا إِلَّا نَذِيرٌ مُّبِينٌ
 ﴿١١٥﴾ قَالُوا لَئِن لَّمْ تَنْتَهَ يَنْبُوحْ لَتَكُونَنَّ مِنَ الْمَرْجُومِينَ ﴿١١٦﴾ قَالَ
 رَبِّ إِنِّي قَوْمِي كَذَّبُونِ ﴿١١٧﴾ فَأَفْتَحَ بَيْتِي وَبَيَّنَّهُمْ فَتَحَا وَبَجَحِي وَمَنْ
 مَعِيَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١١٨﴾ فَأَنْجَيْتَهُ وَمَنْ مَعَهُ فِي الْفُلْكِ الْمَشْحُونِ
 ﴿١١٩﴾ ثُمَّ أَغْرَقْنَا بَعْدَ الْبَاقِينَ ﴿١٢٠﴾ إِنْ فِي ذَلِكَ لَآيَةٌ وَمَا كَانَ
 أَكْثَرَهُمْ مُّؤْمِنِينَ ﴿١٢١﴾ وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿١٢٢﴾ كَذَّبَتْ
 عَادُ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٢٣﴾ إِذْ قَالُوا لَهُمْ آخُوهُمْ هُوَ إِلَّا تَنْتَقُونَ ﴿١٢٤﴾ إِنِّي لَكُمْ
 رَسُولٌ أَمِينٌ ﴿١٢٥﴾ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا عَمَلَكُمْ عَلَيْهِ
 مِنْ أَجْرٍ إِنْ أَجْرِي إِلَّا عَلَىٰ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٢٦﴾ أَتَبْنُونَ بِكُلِّ رِيعٍ
 آيَةً تَعْبَثُونَ ﴿١٢٧﴾ وَتَتَّخِذُونَ مَصَانِعَ لَعَلَّكُمْ تَخْلَدُونَ ﴿١٢٨﴾
 وَإِذَا بَطِشْتُمْ بَطِشْتُمْ جَبَّارِينَ ﴿١٢٩﴾ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا عَمَلَكُمْ
 وَأَتَّقُوا الَّذِي أَمَدَّكُمْ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١٣٠﴾ أَمَدَّكُمْ بِأَعْيُنِهِمُ وَيَنِينَ
 ﴿١٣١﴾ وَجَدَلْتُمْ وَعِيبُونَ ﴿١٣٢﴾ إِنِّي أَخَافُ عَلَيْكُمْ عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ
 ﴿١٣٣﴾ قَالُوا سَوَاءٌ عَلَيْنَا أَوَعَظْتَ أَمْ لَمْ تَكُنْ مِنَ الْوَاعِظِينَ ﴿١٣٤﴾

- 112 ヌーフ(平安を)は言った。かれらがしてきたことについて、わたしが何を知るだろうか。わたしはかれらの行いを計算するような、監督者ではない。
 113 かれらの清算は、かれらの秘密も公の情報も知っているアッラーに属すだけだ。もしあなた方が理解するなら、そのようなことは言わなかったはずだ。
 114 わたしは、あなた方が信仰するためあなた方の願いを聞き入れて、この場から信者たちを追い出さない。
 115 わたしは明白なひとりの警告者にすぎない。アッラーの懲罰を警告するのだ。
 116 かれらは言った。あなたが宣教を止めないなら、ヌーフよ、あなたは恥さらしとなって、石打ちの刑にされる。
 117 ヌーフは言った。わたしの主よ、わたしの民はわたしを拒否して、わたしがあなたからもたらしたものを信じません。
 118 だからわたしとかれらの間を裁決してください。虚偽に固執するかれらを滅ぼし、わたし、またわたしと共にいる信者たちをそのような懲罰から救ってください。
 119 そこでわれらはかれの祈りに応えて、かれと満載した方舟(はこぶね)の中で、かれと共にいた人たちを救った。方舟は人たちと動物で一杯になっていた。
 120 さらに、われらは後に残った不信者たちを溺れさせた。
 121 確かに、ヌーフとその民の物語、そしてヌーフと信者たちが救われ、さらには不信者たちが滅ぼされたという話の中には、アッラーを畏れる人たちにとって一つの教訓がある。多くの人たちは信仰せず、拒否するのだ。
 122 誠にあなたの主は偉力大であり、敵に報復される。一方改心する者には慈悲深い方である。
 123 アードの民も、使徒フード(平安を)を嘘つき呼ばわりすることで、全使徒を拒否した。
 124 かれらの同胞の使徒であるフードが、かれらにこう言ったときのこと。あなた方はアッラーを恐れて、他のものへの崇拜を止めることで、自重しないのか。
 125 確かに、わたしはアッラーによって遣わされたあなた方への使徒であり、啓示されたものに追加も削除もしない誠実な者。
 126 だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。
 127 わたしはあなた方に、主のメッセージを伝えることについて、その報酬を求めない。わたしの報酬はすべての創造主であるアッラーからのものだけであり、他のものからはないのだ。
 128 あなた方はあらゆる高台で見晴らしのきく所に、現世でも来世でも何の利益もなく、不必要な記念碑を建てるか。
 129 また、あなた方は永遠に生きようとして、堅固な要塞や城を建てるのか。
 130 また、あなた方は武力を行使するとき、優しさや慈悲を見せずに、暴君のように殺害のため武力を行使するのか。
 131 だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。
 132 あなた方が知るものを、あなた方に授けた方、アッラーの怒りを恐れるように。
 133 かれは数々の物資や子供たちをあなた方に授け、
 134 また果樹園や流れる泉も授けた。
 135 人々よ、真にわたしはあなた方に降りかかる絶大な日、つまり最後の日の苦痛を恐れる。
 136 人々は言った。あなたが警告しても警告しなくても、わたしたちにとっては同じこと。わたしたちは絶対あなたを信じないし、わたしたちがしていることを止めることはない。

本諸節の功德:

- 貧しくて弱くても、先に信仰した人たちが、好まれて優先されること。
- 不正者が滅ぼされ、信者たちが救われることは、アッラーの慣行である。
- 現世に依拠することは、危険である。
- 虚偽の人たちの執念と、かれらの固執振り。

إِنَّ هَذَا الْأَخْلُقُ الْأَوَّلِينَ ﴿١٣٧﴾ وَمَا نَحْنُ بِمُعَذِّبِينَ ﴿١٣٨﴾ فَكَذَّبُوهُ
 فَأَهْلَكَكُمُ إِنَّا فِي ذَلِكَ لَآيَةٌ وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿١٣٩﴾
 وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿١٤٠﴾ كَذَّبَتْ ثَمُودُ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٤١﴾ إِذْ
 قَالَ لَهُمُ أَحُوهُمْ صَلِّحُوا إِلَيْنَا فَتَقَوْنَا ﴿١٤٢﴾ إِنِّي لَكُمْ رَسُولٌ أَمِينٌ ﴿١٤٣﴾
 فَاتَّبَعُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا ﴿١٤٤﴾ وَمَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ إِنْ أَجْرِيَ
 إِلَّا لَعَلِّي رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٤٥﴾ أَتُرْكُونَ فِي مَا هُمْ بِأَمِينِينَ ﴿١٤٦﴾
 فِي جَنَّتٍ وَعُيُونٍ ﴿١٤٧﴾ وَزُرُوعٍ وَنَخْلٍ طَلَعَتْ هَاضِبًا ﴿١٤٨﴾
 وَتَنْجُوتٍ مِنَ الْجِبَالِ يَبُوءَاتُ فَرِهِينَ ﴿١٤٩﴾ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا
 ﴿١٥٠﴾ وَلَا تَطِيعُوا أَمْرَ الْمُسْرِفِينَ ﴿١٥١﴾ الَّذِينَ يَفْسُدُونَ فِي الْأَرْضِ
 وَلَا يَصْلِحُونَ ﴿١٥٢﴾ قَالُوا إِنَّمَا أَنْتَ مِنَ الْمُسَحَّرِينَ ﴿١٥٣﴾ مَا أَنْتَ
 إِلَّا بَشَرٌ مِثْلُنَا فَأْتِ بآيَةٍ إِنْ كُنْتَ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿١٥٤﴾ قَالَ
 هَذِهِ نَاقَةٌ لَهَا شِرْبٌ وَلَكُمْ شِرْبُ يَوْمٍ مَعْلُومٍ ﴿١٥٥﴾ وَلَا تَمَسُّوهَا
 بِسَوْءٍ فَيَأْخُذْكُمْ عَذَابٌ يَوْمَ عَظِيمٍ ﴿١٥٦﴾ فَعَقَرُوهَا فَاصْبَحُوا
 نَادِمِينَ ﴿١٥٧﴾ فَأَخَذَهُمُ الْعَذَابُ إِنْ فِي ذَلِكَ لَآيَةٌ وَمَا كَانَ
 أَكْثَرُهُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿١٥٨﴾ وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿١٥٩﴾

⑬これは先祖の慣習や特徴であり、かれらの宗教に過ぎない。

⑭だから、わたしたちは懲罰されるものではない。

⑮結局かれらがフード(平安あれ)を拒否したので、われらはかれらを乾いた風で滅ぼした。確かに、この破滅の中には留意する人たちにとっては、一つの教訓がある。しかしフードに反する人々は信じない、拒否する人たちだ。

⑯誠にあなたの主は敵に報復し、偉力大であり、改心する者には慈悲深い方。

⑰サムドの民も使徒サーリフ(平安あれ)を拒否して、全使徒を嘘つき呼ばわりした。

⑱かれらの同胞サーリフが、かれらにこう言ったときのこと。あなた方はアッラーを恐れて、他のものへの崇拜を止めることで、自重しないのか。

⑲確かに、わたしはアッラーによって遣わされたあなた方への使徒であり、啓示されたものに追加も削除もしない誠実な者。

⑳だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。

㉑わたしはあなた方に、主の言葉を伝えることで、その報酬を求めない。わたしの報酬はすべての創造の主、アッラーからだけである。

㉒あなた方は何であれ、享受している善や豊かさがいっつまでも安全で恐れが必要などないと、考えるのか。

㉓果樹園や流れ出る泉、

㉔穀物畑や柔らかくて繊細な実の付いたナツメヤシの園、

㉕また岩山に、あなた方が巧みに彫る家々も安全なのか。

㉖だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。

㉗あなた方は、罪を犯す不穏な人たちの命令に従ってはいけな

㉘かれらは地上に犯罪をはびこらせて腐敗を広げる人

たちで、アッラーの命令に従って矯正する人たちではない。

⑬かれらは言った。あなたは魔術をかけられて、理性を失い、狂気になった人にすぎない。

⑭あなたはわたしたちと同じ人間にすぎない。何もわたしたちを越える特権を持っていないし、使徒でもない。もしあなたの言うことが真実なら、わたしたちに印をもたらしてみよ。

⑮サーリフはアッラーが岩から出した雌ラクダの印を受け取って言った。ここに見たり触れたりできる一頭の雌ラクダがいる。それはあなた方同様に、特定の日に水を飲む。あなたがたが水を飲む日にはそれには飲ませず、それが水を飲む日にはあなた方は飲んではいけな

⑯それを打ったり足を切ったりして、害を加えてはいけな。そうすれば、絶大な日の苦痛(懲罰)があなた方を襲うだろう。

⑰ところがかれらはその膝の腱を切ることを決め、中でも最も邪悪な人がそうしたが、やがて懲罰が下ることに思いが及んで、後悔することになった。しかし懲罰を見た後からでは、後悔は無意味であった。

⑱その後、約束通りの苦痛(懲罰)がかれらを襲った。叫び声の伴った、地震が襲った。確かに、このサーリフとその人々の話の中には、留意する人たちへの一つの教訓がある。でもかれらの多くは信じないで、拒否する人たちであった。

⑲使徒よ、誠にあなたの主は敵に報復される。かれは偉力大であり、改心する者には慈悲深い方。

本諸節の功德:

- 不信仰な状態における恵みの連続は、段階的な破滅である。
- 恵みを語ることによって、信仰とアッラーへの回帰が僕に期待される。
- 背反が、地上の腐敗の原因である。

كَذَّبَتْ قَوْمُ لُوطٍ الْمُرْسَلِينَ ۚ إِذْ قَالَ لَهُمْ أَخُوهُمْ لُوطُ أَلَا تَتَّقُونَ
 ١٦٦ إِيَّايَ لَكُمْ رَسُولٌ أَمِينٌ ۖ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا ۗ وَمَا
 ١٦٧ أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ إِنْ أَجْرِيَ إِلَّا عَلَىٰ رَبِّ الْعَالَمِينَ ۚ
 ١٦٨ أَتَأْتُونَ الذُّكْرَانَ مِنَ الْعَالَمِينَ ۚ وَتَذَرُونَ مَا خَلَقَ لَكُمْ رَبُّكُمْ
 ١٦٩ مِنْ أَرْوَاحِكُمْ بَلْ أَنْتُمْ قَوْمٌ عَادُونَ ۗ قَالُوا لَنْ نَبْرُدَّكَ بِأَنْ
 ١٧٠ تَكُونَنَّ مِنَ الْمُخْرَجِينَ ۗ قَالَ إِيَّايَ لَعَمْرُكَ مِنَ الْقَائِلِينَ ۖ
 ١٧١ رَبِّ يَجْنِي وَأَهْلِي بِمَا يَعْمَلُونَ ۗ فَتَجَبَّحَهُنَّ وَأَهْلَهُنَّ أَجْمَعِينَ ۗ
 ١٧٢ إِلَّا عَجُوزًا فِي الْغَائِرِينَ ۗ فَرُدَّمَتْنَا الْأَخْرَجِينَ ۗ وَأَمْطَرْنَا عَلَيْهِمْ
 ١٧٣ مَطَرًا سَاءَ مَطَرُ الْمُنذَرِينَ ۗ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُمْ
 ١٧٤ مُؤْمِنِينَ ۗ وَإِنَّ رَبَّكَ لَهوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ۗ كَذَّبَ أَصْحَابُ
 ١٧٥ لَيْكَةِ الْمُرْسَلِينَ ۚ إِذْ قَالَ لَهُمْ شُعَيْبٌ أَلَا تَتَّقُونَ ۗ إِيَّايَ لَكُمْ
 ١٧٦ رَسُولٌ أَمِينٌ ۖ فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُوا ۗ وَمَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ
 ١٧٧ مِنْ أَجْرٍ إِنْ أَجْرِيَ إِلَّا عَلَىٰ رَبِّ الْعَالَمِينَ ۗ أَوْفُوا الْكَيْلَ وَلَا
 ١٧٨ تَكُونُوا مِنَ الْمُخْسِرِينَ ۗ وَزِنُوا بِالْقِسْطَاسِ الْمُسْتَقِيمِ ۗ
 ١٧٩ وَلَا تَبْخَسُوا النَّاسَ أَشْيَاءَهُمْ وَلَا تَعْنُوا فِي الْأَرْضِ مُفْسِدِينَ ۗ

الحزب
٢٨

166 ルートの民も、ルートを拒否して、全使徒を嘘つき呼ばわりした。

167 かれらの同胞ルートが、かれらにこう言った。あなた方はアッラーを恐れて、他のものへの崇拜を止めることで、自重しないのか。

168 確かに、わたしはアッラーによって遣わされたあなた方への使徒であり、啓示されたものに追加も削除もしない誠実な者。

169 だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。

170 わたしはあなた方に、主の言葉を伝えることで、その報酬を求めない。わたしの報酬はすべての創造の主、アッラーからだけである。

171 あなた方は世の中の男性に性欲を求め、

172 あなた方の主アッラーが、あなた方のために配偶者として創ったもので性欲を満たさないで放置するのか。いや、あなた方は馬鹿げたことをしてかして、無法な人々である。

173 かれの人々は言った。あなたがわたしたちの行為を止めさせて、非難するのを止めないなら、ルートよ、あなたは仲間と共にこの国から追放されるだろう。

174 ルートは言った。わたしはあなた方の行ないを嫌悪する者の一人だ。

175 わたしは主よ、わたしとわたしの家族を、かれらが行なっていることに対する懲罰から救ってください。

176 それで、**われら**はかれとかれの家族全員を救った。

177 ただし、後に残ったルートの妻は別、彼女は不信仰であった。

178 **われら**はルートとその家族がサドゥームの町を出てから、後に残った者を滅ぼした。

179 **われら**は雨のような石をかれらの上に降らせた。ルートにアッラーの懲罰があると警告されていた人たちに降った雨は最悪であった。

180 確かに、ルートの民がみだらな行為をしていたために下された懲罰の中には、留意する人たちへの一つの教訓がある。でもかれらの多くは信じず、拒否する。

181 使徒よ、誠にあなたの主は敵に報復される。偉力大であり、改心する者には慈悲深い方。

182 森に囲まれた村の人々も、預言者シュアイブ(平安を)を拒否して、全使徒を嘘つき呼ばわりした。

183 シュアイブは、かれらにこう言った。あなた方は偶像崇拜を止めて、アッラーを畏れないのか。

184 確かに、わたしはアッラーによって遣わされたあなた方への使徒であり、啓示されたものに追加も削除もしない誠実な者。

185 だから、アッラーを畏れて、その命令に従い、禁止事項を守るのだ。わたしが命じたことに従い、禁じたことはしないように。

186 わたしはあなた方に、主の言葉を伝えることで、その報酬を求めない。わたしの報酬はすべての創造の主、アッラーからだけである。

187 人のために計量するときは正確な秤で重さを計り、ごまかさないようにせよ。

188 人のために計量するときは、正確な秤で重さを計れ。

189 人の権利を侵してはいけない。また腐敗を広げる人となって、地上で悪を犯してはいけない。

本諸節の功德:

- ルートの民の行いは、異様で最悪であった。
- 自分の民が不信仰で背信の人々であるときは、唱道者にとって試練となる。
- 地上の諸関係は信仰を伴わない限り、懲罰を前にして何の役にも立たない。
- 計量は目一杯とする義務があり、それを減じるのは禁止されている。

وَأَنْفَعُوا الَّذِي خَلَقَكُمْ وَالْحَيَاةَ الْأَوَّلِينَ ﴿١٨٤﴾ قَالُوا إِنَّمَا أَنْتَ مِنَ
 الْمَسْحُورِينَ ﴿١٨٥﴾ وَمَا أَنْتَ إِلَّا الْبَشَرُ مِثْلُنَا وَإِنْ نَظُنُّكَ لَمِنَ
 الْكَذِبِينَ ﴿١٨٦﴾ فَاسْقِطْ عَلَيْنَا كِسْفًا مِّنَ السَّمَاءِ إِنْ كُنْتَ
 مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿١٨٧﴾ قَالَ رَبِّي أَعْلَمُ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١٨٨﴾ فَكَذَّبُوهُ
 فَأَخَذَهُمُ عَذَابٌ يَوْمَ الظُّلَّةِ إِنَّهُ كَانَ عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿١٨٩﴾
 إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُم مُّؤْمِنِينَ ﴿١٩٠﴾ وَإِنَّ رَبَّكَ
 لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿١٩١﴾ وَإِنَّهُ لَنَزِيلُ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٩٢﴾ نَزَلَ بِهِ
 الرُّوحُ الْأَمِينُ ﴿١٩٣﴾ عَلَى قَلْبِكَ لِتَكُونَ مِنَ الْمُنذِرِينَ ﴿١٩٤﴾ بِلِسَانٍ
 عَرَبِيٍّ مُّبِينٍ ﴿١٩٥﴾ وَإِنَّهُ لَفِي زُبُرِ الْأَوَّلِينَ ﴿١٩٦﴾ أَوَلَمْ يَكُنْ لَهُمْ آيَةٌ
 أَنْ يَعْلَمَهُ وَعُلِّمْتُمْ أَبْنَىٰ إِسْرَاءَ يَلِ ﴿١٩٧﴾ وَلَوْ نَزَّلْنَاهُ عَلَىٰ بَعْضِ الْأَعْجَمِينَ
 ﴿١٩٨﴾ فَقَرَأَهُ عَلَيْهِمْ مَا كَانُوا بِهِ مُّؤْمِنِينَ ﴿١٩٩﴾ كَذَلِكَ سَلَكْنَاهُ
 فِي قُلُوبِ الْمُجْرِمِينَ ﴿٢٠٠﴾ لَا يُؤْمِنُونَ بِهِ حَتَّىٰ يَرَوُا الْعَذَابَ
 الْأَلِيمَ ﴿٢٠١﴾ فَيَأْتِيَهُمْ بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٢٠٢﴾ فَيَقُولُوا
 هَلْ نَحْنُ مُنظَرُونَ ﴿٢٠٣﴾ أَفَعِدَّائِنَا يَسْتَعْجِلُونَ ﴿٢٠٤﴾ أَفَرَأَيْتَ
 إِنْ مَتَّعْنَاهُمْ سِنِينَ ﴿٢٠٥﴾ ثُمَّ جَاءَهُمْ مَا كَانُوا يُوعَدُونَ ﴿٢٠٦﴾

184 あなた方と前の世代の人たちを創った方を、その懲罰を恐れて、自重せよ。

185 シュアイブの民は言った。明らかにあなたは、何回も魔術をかけられて理性を失い気が狂った人に違いない。

186 あなたはわたしたちと同じ人間にすぎない。どうして使徒であろうか。わたしたちは、あなたが嘘について使徒であると言っていると思う。

187 もしあなたの言うことが真実なら、空の一部をわたしたちの上に落としてみよ。

188 シュアイブは言った。わたしの主は、あなた方が多神教徒であること、その罪を最もよく知っている。何も隠すことはできないのだ。

189 でも、かれらはシュアイブを拒否したので、猛暑の日が続いて雲が送られてくるという苦痛がかれらを襲った。それはかれらを燃え尽くす、火炎で苦しめた。かれらの滅亡した日は、悲惨な日だった。

190 確かに、シュアイブの民の滅ぼされるこの話の中には、留意する人にとって一つの教訓がある。でも、かれらの多くは信じず、拒否する。

191 使徒よ、真にあなたの主は偉力大であり、敵に報復する。しかし改心する人たちには、慈悲深い方である。

192 確かに、ムハンマド(平安を)に下されたクルアーンは、すべての創造の主からの啓示である。

193 信頼される天使ジブリール(平安を)が、それを下した。

194 使徒よ、あなたの心の上に下された。そうすることで、あなたが警告者の一人となるように。そしてアッラーの懲罰を恐れさせるように。

195 明瞭なアラビアの言葉で啓示した。

196 確かに、それは先祖の幾多の書巻の中にも記されていた。それは、クルアーンが下されるという吉兆であった。

197 イスラールの子孫の学者、例えばアブドラー・ビン・サラームたちが、あなたに下されたものの真実性を知っていたということは、あなたを拒否するかれらにとって一つの印ではないのか。

198 もしわれらがこれを非アラブ人に啓示したなら、

199 これを読誦しても、かれらはそれを信じなかったであろう。理解できないからだ。だから、自身の言葉で下された事について、かれらはアッラーを称えなければならないはずだ。

200 このように、われらは罪深い人たちの中に、それを拒否し信じない心を置いたのだ。

201 それでも、かれらは厳しい懲罰を見るまでは、不信仰の状態を変えずに信じないのだ。

202 そして懲罰は、かれらの気付かない内に、突然襲いかかるのだ。

203 その懲罰が突然やって来る時、かれらは大変悲しんで言う。わたしたちには、アッラーに改心するための猶予は与えられないのかと。

204 かれらはわれらの懲罰を急がせたいのか、次のように言う。あなたが言うように、空をバラバラにして落とすまでは、われわれはあなたを信じないのだ。

205 使徒よ、あなたはどう思うのか、たとえわれらがあなたがもたらした信仰に背を向けるかれらに、幾年もの現世の生活を享楽させたとしても、

206 その後、かれらに約束された懲罰がやって来るのであるから、

本諸節の功德:

● ムスリムはアラビア語の知識を深めるほど、クルアーンを理解できる。

● クルアーンはアッラーからのものであるという啓典の民の公正な人たちの証言による、多神教徒たちへの反論。

● 不信仰者たちが得るどのような享楽であっても、それは歓待ではなく破滅の序曲となる。

مَا أَعْنَى عَنَّهُمْ مَا كَانُوا يُمْتَعُونَ ﴿٦٧﴾ وَمَا أَهْلَكَنَا مِنْ قَرْيَةٍ إِلَّا
 لَهَا مُنْذِرُونَ ﴿٦٨﴾ وَذِكْرَى وَمَا كُنَّا ظَالِمِينَ ﴿٦٩﴾ وَمَا تَنْزَلَتْ بِهِ
 الشَّيْطَانُ ﴿٧٠﴾ وَمَا يَنْبَغِي لَهُمْ وَمَا يَسْتَطِيعُونَ ﴿٧١﴾ إِنَّهُمْ عَنِ
 السَّمْعِ لَمَعَزُونَ ﴿٧٢﴾ فَلَا تَدْعُ مَعَ اللَّهِ إِلَهًا آخَرَ فَتَكُونَ
 مِنَ الْمَعْدِيينَ ﴿٧٣﴾ وَأَنْذِرْ عَشِيرَتَكَ الْأَقْرَبِينَ ﴿٧٤﴾ وَأَخْفِضْ
 جَنَاحَكَ لِمَنِ اتَّبَعَكَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٧٥﴾ فَإِنْ عَصَوْكَ فَقُلْ إِنَّي
 بِرَبِّيءٌ مِّمَّا تَعْمَلُونَ ﴿٧٦﴾ وَتَوَكَّلْ عَلَى الْعَزِيزِ الرَّحِيمِ ﴿٧٧﴾ الَّذِي
 يَرِيكَ حِينَ تَقُومُ ﴿٧٨﴾ وَتَقْلُبُكَ فِي السُّجُودِ ﴿٧٩﴾ إِنَّهُ هُوَ السَّمِيعُ
 الْعَلِيمُ ﴿٨٠﴾ هَلْ أُنَبِّئُكُمْ عَلَىٰ مَنْ نَزَّلَ الشَّيْطَانُ ﴿٨١﴾ تَنْزَلَ عَلَىٰ
 كُلِّ آفَاكٍ أَثِيمٍ ﴿٨٢﴾ يُفْقَوَاتِ السَّمْعَ وَأَكْثُرُهُمْ كَذِبُونَ ﴿٨٣﴾
 وَالشُّعْرَاءُ يَتَّبِعُهُمُ الْغَاوُونَ ﴿٨٤﴾ أَلَمْ تَرَ أَنَّهُمْ فِي كُلِّ وَادٍ
 يَهِيمُونَ ﴿٨٥﴾ وَأَنَّهُمْ يَقُولُونَ مَا لَا يَفْعَلُونَ ﴿٨٦﴾ إِلَّا الَّذِينَ
 ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَذَكَرُوا اللَّهَ كَثِيرًا وَانْتَصَرُوا مِنْ
 بَعْدِ مَا ظَلَمُوا وَسَيَعْلَمُ الَّذِينَ ظَلَمُوا أَيَّ مُنْقَلَبٍ يَنْقَلِبُونَ ﴿٨٧﴾

سورة النبأ
 ١٧ آياتها
 ٩٣ آياتها

●**107** 享樂を与えられたことは、かれらにとって何が良かったというのか。それはいずれ終わりを迎え、その後は何の役に立たない。

●**108** **われ**らは人々に警告者を遣わさないで、また啓典を啓示しないで、いかなる町も滅ぼしたことはない。

●**109** それらは諭し、警告するためである。そして使徒を遣わし、啓典を下したのであり、手を尽くしたので、**われ**らのはかれらを罰しても不正なことはしていない。

●**110** 悪魔たちがクルアーンを、ムハンマド(平安を)の心にもたらすことはない。

●**111** クルアーンをムハンマド(平安を)の心にもたらすことは、かれらにとって妥当でなく、またかれらにはできない。

●**112** 確かに、かれらは天国で啓示を聞くことから遠ざけられているのだから、どうしてそれに近づき、下すことができようか。

●**113** だから、アッラーと共に、他の神を崇めてはいけなしい、またアッラーに帰属させてもいけない。さもないと、あなたも懲罰される人の仲間となる。

●**114** 使徒よ、あなたに近い者の順で近親者に警告せよ。そして多神教に留まって、アッラーの懲罰を受けないようにするのだ。

●**115** またあなたに従う信者たちには、言動で親切にして、慈悲と優しさを忘れないように。

●**116** もしかれらが、アッラーの唯一性信奉と**かれ**への服従においてあなたに従わないなら、言え。あなた方が行なう多神崇拜とその罪は、わたしには無関係である。

●**117** そして偉力大かつ慈悲深き方に、すべて依拠しなさい。**かれ**こそは敵から報復を果たし、改心する者には慈悲を垂れる方。

●**118** **かれ**(称賛あれ)はあなたが礼拝に立つのを見ており、

●**119** また礼拝をする人たちの間での、あなたの諸動作をも見ている。何事も隠せず、どんな行動も、誰の行動も見られているのだ。

●**120** **かれ**はあなたがクルアーンを誦誦するのも礼拝中に唱念するのも聞いておられる。**かれ**は全聴にして全知である。

かれらが、悪魔がクルアーンを下したのであり、ムハンマド(平安を)は詩人であると主張した時、アッラーはそれを拒否して、次のように言われた。

●**121** **われ**があなた方に告げようか。あなた方がクルアーンを下したと主張している悪魔たちが、誰の上にするのかを。

●**122** かれらは古い師の所に来るのだ。かれらはいつも嘘をついており、罪作りで不服従である。

●**123** 悪魔は天使たちからこっそりと話を聞いて、それを仲間の古い師たちに伝えるのだ。古い師たちの大半は、嘘つきである。かれらはたとえ一つの真実を語るとしても、百の嘘をつくのである。

●**124** またムハンマド(平安あれ)がそうだとかれらが主張する詩人たちは、邪道に迷い堅固さを失った人たちによって従われる。そしてかれらはそれらの詩人たちから、どんな詩でも聞いたものを伝えるのだ。

●**125** 使徒よ、かれらの間違いの表れとして、あなたはかれらがどの谷間でもさ迷い歩き、時には称賛し、時には批判し、しばしばそれ以外のことにかかわっているのを見ないのか。

●**126** また、かれらは嘘つきで、かれら自身があれやこれを行ったと言うが、実際は何もしていないのだ。

●**127** ただし、詩人でも信仰して善行に勤しむ人たち、アッラーを多く唱念し、虐待された後には報復して自らを守る人たちは別である。例えば、ハッサーン・ビン・サービト(アッラーのお喜びを)がいる。アッラーに同列者を配し、その僕に敵対した人たちは、どんな所に帰るのかをやがて知るだろう。かれらは大変なところに帰り、そこで厳密な清算を受けることになるのだ。

本諸節の功德:

- アッラーの正義とその不正の否定の確認。
- 悪魔はクルアーンに近づいたということの、明確な否定。
- アッラーへと唱導する者への、やさしさと友好的であることの重要性。
- 詩というものは、良いのは良いが、醜いのは醜い。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

طَسَّ تِلْكَ آيَاتُ الْقُرْآنِ وَكِتَابٍ مُبِينٍ ﴿٧﴾ هُدًى وَبُشْرَى
 لِلْمُؤْمِنِينَ ﴿٨﴾ الَّذِينَ يُقِيمُونَ الصَّلَاةَ وَيُؤْتُونَ الزَّكَاةَ وَهُمْ
 بِالْآخِرَةِ هُمْ يُوقِنُونَ ﴿٩﴾ إِنَّ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ رِيتَا لَهُمْ
 أَعْمَالَهُمْ فَهُمْ بِعَمَلِهِمْ بَلُونَ ﴿١٠﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ لَهُمْ سُوءُ الْعَذَابِ
 وَهُمْ فِي الْآخِرَةِ هُمْ الْأَخْسَرُونَ ﴿١١﴾ وَإِنَّكَ لَتَلْقَى الْقُرْآنَ مِنْ
 لَدُنِّ حَكِيمٍ عَلِيمٍ ﴿١٢﴾ إِذْ قَالَ مُوسَى لِأَهْلِهِ إِنِّي آنَسْتُ نَارًا سَاءَتِ كُفْرُ
 مَنَهَا بَخِيرٌ أَوْ آتِيكُمْ بِشَهَابٍ قَبَسٍ لَعَلَّكُمْ تَصْطَلُونَ ﴿١٣﴾ فَلَمَّا جَاءَهَا
 نُودِيَ أَنْ بُورِكَ مِنَ الْتَارِ وَمَنْ حَوْلَهَا وَسَبَّحَنَ اللَّهُ رَبَّ
 الْعَالَمِينَ ﴿١٤﴾ يَمْوَسِي إِنَّهُ وَأَنَا اللَّهُ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿١٥﴾ وَأَلْقَى عَصَاكَ
 فَلَمَّا رَأَاهَا تَهْتَزُّ كَأَنَّهَا جَانٌّ وَلَّى مُدْبِرًا وَلَمْ يُعَقِّبْ يَمْوَسِي لَأَخْفَى
 إِلَيَّ لَا يَخَافُ لَدَى الْمُرْسَلُونَ ﴿١٦﴾ إِلَّا مَنْ ظَلَمَ ثُمَّ بَدَلْ حَسَنًا بَعْدَ
 سُوءٍ فَإِنِّي غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿١٧﴾ وَأَدْخَلَ يَدَكَ فِي جَيْبِكَ تَخَرُّجَ بَيْضَاءَ مِنْ
 عَيْرٍ سُوءٍ فِي تِسْعِ آيَاتٍ إِلَى فِرْعَوْنَ وَقَوْمِهِ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا فَاسِقِينَ
 ﴿١٨﴾ فَلَمَّا جَاءَهُمْ آيَاتُنَا مُبْصِرَةً قَالُوا هَذَا سِحْرٌ مُبِينٌ ﴿١٩﴾

本章の趣旨:

預言者(アッラーの祝福と平安を)がクルアーンという恵みをもたらしたことのありがたみ、それへの感謝とその伝教における忍耐を説く。

説明:

①ター・スーン。これらはクルアーンの諸節で、(真実を)明瞭にする啓典である。雌牛章の初めに同様な文字がある。啓示された章節は、全く混乱のない明確な書であり、それを熟慮する人は、それがアッラーからのものであることを知るようになる。

②それは信者たちへの真実への直接の導きであり、アッラーとその使徒たちを信じる者たちへの吉報である。

③かれらは完全に礼拝の務めを守り、その資財より定めぬの施しをなし、かれらこそは報奨と懲罰のある来世を確信する人々である。

④確かにわれらは来世を信じないで、そこでの報奨も懲罰も信じない人々について、その行ないが立派に見えるようにしたので、かれらはさ迷い続けて、混乱して、正しい導きの方向を見誤ることであろう。

⑤かれらは試練と恥辱により現世で困り果て、また来世では、最後の審判において家族と共に最悪の苦痛が科せられて地獄行きとなるので、真にかれらこそは最大の損失者である。

⑥使徒よ、誠にあなたは、創造、管理と裁きにおいて英明で、かつ僕のすべての利害を知る全知な方の御元から、クルアーンを授かっている。

⑦使徒よ、ムーサーがかれの家族に言った。確かに、わたしは一点の火を見た。わたしはそこからあなた方を正しい道に導くお告げの知らせをもたらすだろう。または、燃え盛りたいまつを持ち帰ることで、その火であなた方を寒さから暖められるかもしれない。

⑧かれがその火のところに来ると、アッラーがこう呼ばれた。火の側にいる者とその周りの者(ムーサーと天使たち)に祝福あれ。そして主を称え、誤道にある者たちが結び付ける属性を主から除去するよう。

⑨ムーサーよ、真にわれらはアッラーであり、誰もしのぐことができないほどに、偉力大で、かつ創造、管理と裁きにおいて英明である。

⑩アッラーは言われた。さあ、あなたの杖を投げよ。そのようにすると、ムーサーはそれが蛇のように震えて動いているのを見て逃げだして振り返らなかった。ムーサーよ、あなたは恐れてはいけない。誠に使徒たちは、蛇であれ何であれ、われらの前で恐れぬものである。

⑪もちろん、罪を犯した後、改心して悪を善で置き換える人も恐れぬ。真にわれらはよく赦し、慈悲深いのだ。

⑫また、あなたの手を衣の開口の下に入れなさい。癩(らい)病などの病気でもないのに、それは白くなる。それはフィルアウンとかれの民に示す九つの印の一部である。他にあるのは、杖、飢餓、不作、洪水、イナゴ、シラミ、カエル、血である。かれらはアッラーへの服従を去って、不信仰を抱く人々なのである。

⑬われらの印が明瞭にかれらに届いたのは、ムーサーに助けとなった。しかしかれらは言った。これらの印はムーサーがもたらしたもので、それらは明らかに魔術である。

本諸節の功德:

- クルアーンは信者にとって、導きであり吉報である。
- アッラーを信じないことは、言動における誤り、当惑と混乱の原因である。
- 至高なるアッラーは使徒たちを、あらゆる悪から安全にし、防御された。

وَجَحَدُوا بِهَا وَاسْتَيْقَنَتْهَا أَنفُسُهُمْ ظُلْمًا وَعُلُوًّا فَانظُرْ كَيْفَ
 كَانَ عَاقِبَةُ الْمُفْسِدِينَ ﴿١٤﴾ وَلَقَدْ آتَيْنَا دَاوُدَ وَسُلَيْمَانَ عِلْمًا
 وَقَالَا الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي فَضَّلَنَا عَلَى كَثِيرٍ مِّنْ عِبَادِهِ الْمُؤْمِنِينَ
 ﴿١٥﴾ وَوَرِثَ سُلَيْمَانُ دَاوُدَ وَقَالَ يَا أَيُّهَا النَّاسُ عُلِمْنَا مَنطِقَ
 الطَّيْرِ وَأَوْتِينَا مِنْ كُلِّ شَيْءٍ إِنَّ هَذَا لَهُوَ الْفَضْلُ الْمُبِينُ ﴿١٦﴾
 وَحُشِرَ لِسُلَيْمَانَ جُنُودُهُ مِنَ الْجِنِّ وَالإِنسِ وَالطَّيْرِ فَهُمْ
 يُوزَعُونَ ﴿١٧﴾ حَتَّى إِذَا اتَوْا عَلَى وَادِ النَّمْلِ قَالَتْ نَمَلَةٌ يَأَيُّهَا
 النَّمْلُ ادْخُلُوا مَسَاكِنِكُمْ لَأَيَّطَمَّتْكُمْ سُلَيْمَانُ وَجُنُودُهُ وَهُمْ
 لَا يَشْعُرُونَ ﴿١٨﴾ فَتَبَسَّ ضَاحِكًا مِّنْ قَوْلِهَا وَقَالَ رَبِّ أَوْزِعْنِي
 أَنْ أَشْكُرَ نِعْمَتَكَ الَّتِي أَنْعَمْتَ عَلَيَّ وَعَلَىٰ وَالِدِيَّ وَأَنْ أَعْمَلَ
 صَالِحًا تَرْضَاهُ وَأَدْخِلْنِي بِرَحْمَتِكَ فِي عِبَادِكَ الصَّالِحِينَ
 ﴿١٩﴾ وَتَفَقَّدَ الطَّيْرَ فَقَالَ مَا لِيَ لَأَ أَرَى الْهَدَىٰ هَذَا أَمْ كَانَ
 مِنَ الْغَائِبِينَ ﴿٢٠﴾ لَأُعَذِّبَنَّهُ عَذَابًا شَدِيدًا أَوْ لَأَذْبَحَنَّهُ
 أَوْ لِيَأْتِيَنِّي بِسُلْطَنِ مُّبِينٍ ﴿٢١﴾ فَمَكَتْ عَيْرٌ بَعِيدٍ فَقَالَ
 أَحَطْتُ بِمَا لَمْ تُحِطْ بِهِ وَجِئْتُكَ مِنْ سَبَإٍ بِنَبَإٍ يَقِينٍ ﴿٢٢﴾

14)かれらは心の中ではそれらの奇跡がアッラーからのものだと認めながら、真実に対する不正さと高慢さからこれを否認した。だから使徒よ、これら地上に腐敗をもたらす人たちの末路が、不信仰と不服従のためにどうであったかを見よ。かれらを破壊し、全員を消滅させたのだ。

15)確かに、われらはダーウードとその息子のスライマーンに知識を授けた。その一部は鳥の言葉であった。二人は感謝して言った。わたしたちを知識と預言者性と王権によって、信仰する数多くのかれの僕の上に優遇された、アッラーにこそ称賛あれ。

16)そして、スライマーンはダーウードの知識と王国を後継してこう言った。人々よ、わたしはアッラーによって鳥の言葉を教えられ、また預言者たちや諸王に与えられたあらゆるものを授けられた。これは、明らかな寵愛である。

17)また、スライマーンのために人間とジンと鳥たちの軍隊が動員され、かれらは部隊に編成された。

18)やがて蟻の谷へとやって来たとき、一匹の蟻が言った。蟻たちよ、自分の住みかに戻りなさい。スライマーンとその軍隊が気づかないままに、あなた方を踏み潰さないように。

19)すると、かれはその言葉に微笑んで言った。わたしの主よ、わたしと両親に恵みを与えたあなたの恩寵に感謝し、あなたを喜ばせる善行をするように励ましてください。またあなたの慈悲で、わたしをあなたの正しい僕の中に入れてください。

20)またスライマーンは、鳥たちを点検して言った。なぜヤツガシラがないのか。それはわたしが目にしないだけなのか、それとも不在か。

21)不在であると判明したので、言った。明らかな理由を持って来ない限り、わたしは激しい苦痛でそれを処罰するか、または殺すだろう。

22)すると間もなくして、それはやって来て言った。わたしは、あなたが把握していないことを把握しました。わたしは、サバアから疑いのない、確かな情報を持って来たのです。

本諸節の功德:

- 微笑は、高潔な人の笑い方。
- 恵みに感謝することは、預言者と正しい人の主に対する礼儀である。
- 正しい人たちに対しては、欠席する際には、理由をもって断るべきだ。
- それに値する者の処罰と、正当な理由がある者の弁解を受け入れるという政策。
- 目下の者が年上の者の知らないことを知っていることもある。

إِنِّي وَجَدْتُ أُمَّرَأَةً تَمْدِكُهُمْ وَأُوتِيَتْ مِنْ كُلِّ شَيْءٍ وَلَهَا
عَرْشٌ عَظِيمٌ ﴿٣٢﴾ وَجَدْتُهَا وَقَوْمَهَا يَسْجُدُونَ لِلشَّمْسِ
مِنْ دُونِ اللَّهِ وَزَيْنُ لَهُمُ الشَّيْطَانُ أَعْمَالَهُمْ فَصَدَّهُمْ عَنِ السَّبِيلِ
فَهُمْ لَا يَهْتَدُونَ ﴿٣٣﴾ أَلَا يَسْجُدُونَ لِلَّهِ الَّذِي يُخْرِجُ الْخَبْءَ فِي
السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَيَعْلَمُ مَا تُخْفُونَ وَمَا تُعْلِنُونَ ﴿٣٤﴾ اللَّهُ
لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ رَبُّ الْعَرْشِ الْعَظِيمِ ﴿٣٥﴾ قَالَ سَنْظُرُ
أَصَدَقْتَ أَمْ كُنْتَ مِنَ الْكَاذِبِينَ ﴿٣٦﴾ أَذْهَبَ بِكِ كَيْفِي هَذَا
قَالَتْ يَا لَهُمْ نُبُؤُا تَوَلَّوْا عَنْهُمْ فَأَنْظُرْ مَا ذَا بَأْسِكُمْ ﴿٣٧﴾ قَالَتْ يَا أَيُّهَا
الْمَلَأُؤْتَى أَلْفَى إِلَى كَيْتَبٍ كَرِيمٍ ﴿٣٨﴾ إِنَّهُ مِنْ سُلَيْمَانَ وَإِنَّهُ
بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ ﴿٣٩﴾ أَلَّا تَعْلَمُونَ أَعْلَى وَأَتُونِي مُسْلِمِينَ ﴿٤٠﴾
قَالَتْ يَا أَيُّهَا الْمَلَأُؤْتَى فِي أَمْرِي مَا كُنْتُ قَاطِعَةً أَمْرًا حَتَّى
تَشْهَدُونَ ﴿٤١﴾ قَالُوا نَحْنُ أَوْلَا قُوَّةً وَأَوْلُوا بِأَسْئِدٍ وَالْأَمْرِ
إِلَيْكَ فَأَنْظِرِي مَا ذَاتَا مَرِيَيْنِ ﴿٤٢﴾ قَالَتْ إِنَّ الْمُلُوكَ إِذَا دَخَلُوا قَرْيَةً
أَفْسَدُوهَا وَجَعَلُوا أَعْرَآةَ أَهْلِهَا آذِنَةً وَكَذَلِكَ يَفْعَلُونَ ﴿٤٣﴾
وَإِنِّي مُرْسَلَةٌ إِلَيْهِمْ بِهَدِيَّةٍ فَنَاظِرَةٌ بِمَ يَرْجِعُ الْمُرْسَلُونَ ﴿٤٤﴾

23 わたしはある婦人が、人々を治めているのを発見しました。かの女にはあらゆる力と王国が授けられて、立派な王座の上から統治しています。

24 わたしはかの女とその民が、アッラーを差し置いて、太陽を崇拜しているのを見ました。悪魔がかれらに自分たちの行いを立派だと思い込ませ、正道からかれらを閉め出しているのだから、かれらは正しく導かれていないのです。

25 かれらがアッラーを崇拜しないで、不信仰と背信の行為を立派だと思わせたのは、悪魔の仕業です。かれは諸天に隠された雨や、地に隠された植物を現わし、そしてあなた方が隠すことも現わすことも知っておられます。何事もかれの目からは、隠せないのです。

26 アッラー、かれの他に崇拜されるべき神はいません。かれは偉大な玉座の主であられます。

27 スライマーンは言った。ヤツガラのあなたが真実を語ったのか、または嘘つきなのか、わたしたちは見てみよう。

28 このわたしの書簡を持って行って、サバアの人たちに渡して、挨拶してくるのだ。そして引き下がって、かれらが何と返事するかを見てみよ。

29 サバアの女王は言った。参謀たちよ、わたしの元に丁寧な立派な書簡が届けられた。

30 実にそれはスライマーンからのもので、こう記されている。慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において、

31 あなた方はわたしに対して高慢にならないように。単一のアッラーに服従して、わたしの元に来るように、そして太陽を崇めるような多神教から離れるようにと。

32 かの女は言った。参謀たちよ、直面するわたしのこの事案の正しい処理法について、わたしに助言を与えよ。あなた方が意見を出すまでは、わたしは何も決定しない。

33 かれらは言った。わたしたちは強力で、逞しい武力を持つ民です。命令はあなた次第、どう命令するか、よく考えてください。

34 かの女は言った。確かに、王たちが町に入ると、かれらは殺人を犯し、町を破壊して、収奪するだろう。そしてその住民の最も高貴な人を辱(はずかし)めて最も卑(いや)しくするだろう。かれらは征服するといつもこのようにしており、恐怖の種を人々の心に植えるのである。

35 そこでわたしは、かれらに贈物を届けよう。そして使者たちが、どんな返事を持ち帰るか見よう。

本諸節の功德:

- ヤツガラがサバアの民の多神教と不信仰を批判したということは、信仰とは被造物の天性によることを示している。
- 被告を調査し、その弁明を確認すること。
- 敵側の情報を探ることは、許されること。
- 書簡は、バスマラ(慈悲あまねく慈悲深き、アッラーの御名において)で始めること。
- 過った人たちの面前で、信者の誇りを示すことは望ましいことである。

فَلَمَّا جَاءَ سُلَيْمَنَ قَالَ أَسْمُدُ وَنَ بِيَمَالٍ فَمَاءُ اتْنِ ۗ اللَّهُ خَيْرٌ مِمَّا
 ءَاتَاكُمْ بَلْ أَنْتُمْ بِهَيْدِيَّتِكُمْ تَفْرَحُونَ ﴿٣٦﴾ أَرْجِعْ إِلَيْهِمْ فَلَنَأْتِيَهُمْ
 بِجُودٍ لَّا يَقْبَلُ لَهُمْ بَهَا وَلَنُخْرِجَهُمْ مِنْهَا أَذِلَّةً وَهُمْ صَاغِرُونَ ﴿٣٧﴾
 قَالَ يَا أَيُّهَا الْمَلَأُ أَيُّكُمْ يَأْتِينِي بِعَرْشِهَا قَبْلَ ۚ أَنْ يَأْتُونِي مُسْلِمِينَ
 ﴿٣٨﴾ قَالَ عَفْرَيْتُ مِنَ الْجِنِّ أَنَاءَ اتِّبِكَ بِهِ ۚ قَبْلَ أَنْ تَقُومَ مِنْ مَقَامِكَ
 وَإِنِّي عَلَيْهِ لَقَوِيٌّ أَمِينٌ ﴿٣٩﴾ قَالَ الَّذِي عِنْدَهُ عِلْمٌ مِّنَ الْكِتَابِ أَنَا
 ءَاتِيكَ بِهِ قَبْلَ أَنْ يَرْتَدَّ إِلَيْكَ طَرْفُكَ فَلَمَّا رَآهُ مُسْتَقِرًّا عِنْدَهُ
 قَالَ هَذَا مِنْ فَضْلِ رَبِّي لِيَبْلُوَنِي ءَأَشْكُرُ أَمْ أَكْفُرُ ۚ وَمَن شَكَرَ فَإِنَّمَا
 يَشْكُرُ لِنَفْسِهِ ۗ وَمَن كَفَرَ فَإِنَّ رَبِّيَ عَنِّي كَرِيمٌ ﴿٤٠﴾ قَالَ نَكُرُوا هَٰهَا
 عَرْشَهَا نَنظُرْ أَتَهْتَدِي ۖ أَمْ تَكُونُ مِنَ الَّذِينَ لَا يَهْتَدُونَ ﴿٤١﴾ فَلَمَّا
 جَاءَتْ قِيلَ أَهَلْ كَذَا عَرَشُكَ ۖ قَالَتْ كَأَنَّهُ هُوَ ۚ وَأُوْتِينَا الْعِلْمَ مِن قَبْلِهَا
 وَكُنَّا مُسْلِمِينَ ﴿٤٢﴾ وَصَدَّهَا مَا كَانَتْ تَعْبُدُ مِن دُونِ اللَّهِ ۚ إِنَّهَا كَانَتْ مِن
 قَوْمِ كَافِرِينَ ﴿٤٣﴾ قِيلَ لَهَا ادْخُلِي الصَّرْحَ فَلَمَّا رَأَتْهُ حَسِبَتْهُ لُجَّةً
 وَكَشَفَتْ عَنْ سَاقِهَا قَالَتْ إِنَّهُ صَرْحٌ مُّمَرَّدٌ مِّن قَوَارِيرَ ۖ قَالَتْ رَبِّ
 إِنِّي ظَلَمْتُ نَفْسِي ۖ وَأَسَأَمْتُ مَعَ سُلَيْمَانَ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٤٤﴾

③⑥ サバアの使者とその補佐がスライマーンを訪れると、かれは言った。何とあなた方はわたしに財宝を与えて、あなた方から遠ざけようというのか。しかしアッラーがわたしに与えた預言者の立場、王国そして財宝は、かれがあなた方に与えたものよりも優れている。全くあなた方は、自分の現世の贈物に喜んでいただけなのだ。

③⑦ スライマーン(平安を)は言った。かれらの元に贈り物を持ち帰れ。かれらが立ち向かえない軍隊でもってあちらに出向き、かれらを卑しい人にして、サバアの土地から追い出すだろう。もし降伏してこちらに来なければ、そうしてかれらは面目を失うのだ。

③⑧ スライマーン(平安を)は言った。参謀たちよ。あなた方の中、かれらが服従してわたしの元に来る前に、誰がかの女の王座をわたしに持って来ることができるのか。

③⑨ すると、ジンの中のイフリート(屈強で悪賢いジン)が言った。あなたがその場所から立ち上がる前に、わたしはその王座をあなたに持って参りましょう。確かに、それについてわたしは有能であり、何も王座から取らないという信頼もしていただけます。

④① アッラーの偉大な名前はそれを祈りで唱えれば受け入れてもらえるものだが、それを含む啓典の知識を持つ者は言った。アッラーに祈れば、瞬きを一度する間に、わたしはその王座をあなたの元に持って参りましょう。そこでその男は祈り、アッラーはその祈りに答えられたので、それがかれの元に置かれたのを見て言った。これはわたしの主、アッラーの恩恵で、わたしが感謝するのか、または忘恩なのかを試みるためである。誰でも感謝する人は、自分のために感謝しているのであり、アッラーは何も必要とされず、僕の寄せる謝意によって、損も得もされない。忘恩な人がいても、確かにわたしの主、アッラーは、自存しておられる。謝意を必要とされず、気前が良い方で、そのことはかれを拒否する人にも供与されることがあるくらいだ。

④② スライマーン(平安を)は言った。かの女の王座の装いを変えよ。かの女がそのことに気付くように導かれるのか、導かれぬのかを試してみよう。

④③ そこで、かの女が到着するとかの女は、試みのために尋ねられた。あなたの王座はこのような風か。かの女は言った。そのようです。するとスライマーンは言った。わたしたちはあなたより以前に知識を与えられ、アッラーに服従していたのである。

④④ かの女は、人々に従って他のものを崇めていたので、アッラーの唯一性の信仰から遠ざけられていた。確かに、かの女は不信心な民の一人であった。

④⑤ それからかの女は宮殿に入るように言われた。でも、それを見たとき、平らな池だと思ひ裾を上げて、かの女は両脛(すね)を露出した。スライマーン(平安あれ)は言った。実はこれはガラス張り、平らな宮殿である。そしてスライマーンはかの女を、イスラームに入るように呼び掛けた。かの女はそれを受け入れて言った。わたしの主、アッラーよ、確かに、わたしは他のものを崇めて、自ら不正を犯した。わたしはスライマーンと一緒に、すべての創造の主、アッラーに服従する。

本諸節の功德:

- 信仰の誇りは、現世の虚栄に影響されないように守ってくれる。
- 物への執着は、不信仰者たちの特性である。
- 信者はアッラーの恩寵につき、はっきりと目覚めている。
- 敵対者の知能を試すことは、適切に対処するためである。
- 敵対者に優越を示すことで、相手に影響を与えることができる。

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا إِلَىٰ تَمُودَ أَخَاهُمْ صَالِحًا أَنِ اعْبُدُوا اللَّهَ
فَإِذَا هُمْ فَرِيقَانِ يَخْتَصِمُونَ ﴿٤٥﴾ قَالَ يَتَقَوَّمُ لِمَ تَسْتَعِجِلُونَ
بِالسَّيِّئَةِ قَبْلَ الْحَسَنَةِ لَوْلَا تَسْتَغْفِرُونَ اللَّهَ لَعَلَّكُمْ
تُرْحَمُونَ ﴿٤٦﴾ قَالُوا أَطِیرْنَا بِكَ وَبِمَنْ مَعَكَ قَالَ طَائِرُكُمْ
عِنْدَ اللَّهِ بَلْ أَنْتُمْ قَوْمٌ تُفْتَنُونَ ﴿٤٧﴾ وَكَانَ فِي الْمَدِينَةِ
شَجْعَةٌ رَهْطٌ يُفْسِدُونَ فِي الْأَرْضِ وَلَا يُصِلِحُونَ ﴿٤٨﴾
قَالُوا إِنَّا سَمِعْنَا بِاللَّهِ لِنَبِيِّتِنَا وَوَأَهْلِهِ ثُمَّ لَمْ نُفَلِّمْ لَوْلِيَّهِ
مَا شَهِدْنَا مَهْلِكِ أَهْلِهِ وَوَأَنَا الصَّادِقُونَ ﴿٤٩﴾ وَمَكَرُوا
مَكْرًا وَمَكَرْنَا مَكْرًا وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٥٠﴾ فَأَنْظِرْ
كَيْفَ كَانَ عِقَابُهُمْ أَنَا دَمْرُنُهُمْ وَقَوْمُهُمْ
أَجْمَعِينَ ﴿٥١﴾ فَتِلْكَ بَيُوتُهُمْ خَاوِيَةٌ بِمَا ظَلَمُوا إِيَّاكَ
فِي ذَلِكَ لَأَيَّةٌ لِّقَوْمٍ يَعْلَمُونَ ﴿٥٢﴾ وَأَنْجَيْنَا الَّذِينَ آمَنُوا
وَكَانُوا يَتَّقُونَ ﴿٥٣﴾ وَلَوْ طَآءِدُ قَالِ لِقَوْمِهِ أَتَأْتُونَ
الْفَلْحِشَةَ وَأَنْتُمْ تُبْصِرُونَ ﴿٥٤﴾ أَيْبُكُمْ لَتَأْتُونَ الرِّجَالَ
شَهْوَةً مِّنْ دُونِ النِّسَاءِ بَلْ أَنْتُمْ قَوْمٌ تَجْهَلُونَ ﴿٥٥﴾

④⑤ 確かに、われらはサムードの民に、かれらの同胞サーリフ(平安を)を遣わして、アッラーに仕えなさいと伝えさせた。ところが見よ。かれらは、どちらが真実かということで、信者と不信仰者の二派に分れてしまった。

④⑥ かれは言った。わたしの人々よ、なぜあなた方はアッラーの慈悲よりも懲罰を急ぐのか。なぜあなた方はその罪について、アッラーの赦しを請わないのか。そうすることで、赦されるかも知れないのに。

④⑦ かれらは、真実に反して執拗に言った。わたしたちはあなたとあなたの仲間を、不吉な予兆と見ている。サーリフ(平安あれ)は言った。あなた方を襲う不幸の悪い予兆としてあなた方が見ているものの知識は、アッラーのもとにあり、かれはそれをご存知である。そしてあなた方は、豊かに授けられているよいものと、降りかかる悪によって試されているのである。

④⑧ このヒジュルの町には、不信仰と罪をなす9人のならず者がいた。かれらは地上に腐敗を広げて、信仰と善行で身を正すことはなかった。

④⑨ かれらは互いに言った。「サーリフとかれの家族を夜襲するように、アッラーにかけて共に誓おう。それから、かれの近親者で報復をしてくる者に言おう。わたしたちはかれとその家族の殺害は目撃しなかった。確かに、わたしたちは正直者である。」

④⑩ かれらはサーリフとその信者たちを殺す悪巧みをしたが、われらも凶って支援することし、不信仰者たちを滅ぼすこととした。でもかれらは気付かなかった。

④⑪ だから使徒よ、かれらの悪巧みの結果や末路がどんなものであったのか見よ。かれらの意図は達成したのか。いや、実際、われらは処罰として、かれらとかれらの民全員を滅ぼしてしまった。

④⑫ これらは、かれらが不正を行なったために壁も天井も落ちてしまって廃墟と化した、誰も住まないかれらの住居跡だ。不正のために懲罰が下った中には、確かに信仰ある人、印を教訓とする人への一つの教訓がある。

④⑬ でも、サーリフ(平安あれ)の民の中でも信仰してアッラーを畏れ、命令に服して禁止を守る、信仰する人たちをわれらは救った。

④⑭ また使徒よ、ルートはその民に、罪を問い詰めて、非難してこう言った。あなた方は男色を悪と知りながら、互いにみだらな行為を犯すのか。

④⑮ なぜあなた方は貞淑さや子孫を望むのでなく、女性たちを差し置いて、動物のような情欲をもって男性たちに近づくのか。いや、あなた方は何が必要かを知らない無知の民である。つまり、信仰、清浄さ、そして罪悪からは遠ざかるということが必要なのである。

本諸節の功德:

- 背信につき赦しを請うことは、慈悲の原因となりうる。
- 人や物事に悲観的となることは、信者のすることではない。
- 正しい人たちに対して悪や奸計を図る結果は、常に悪い。
- 公に悪をなすことは、それを隠してするより醜い。
- 悪徳で掟破りの者を非難することは、義務である。